

こども教育宝仙大学の教育方針

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

こども教育宝仙大学は、建学の精神に基づき、仏教精神を基調とした人間教育の伝統を基にした「人を造る」の実践を通して、慈悲・敬虔・感謝・奉仕の心に満ちた豊かな人材とともに、専門的知識・技術を習得し、高次な倫理観と教養を備え、広い視野に立った判断力をもって社会に貢献できる人材の育成を目指した教育課程を編成しています。

卒業までに次の能力を身につけ、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、「学位規則」により学位を授与します。

1. 人間性豊かで社会性に富み、他者との円滑なコミュニケーションができる
2. 溢れる情報と多様化した社会の中で、変化に即した判断ができる
3. 専門知識や技法を適切に駆使でき、絶えずそれを向上させようと努力することができる

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

こども教育宝仙大学のカリキュラムは、建学の精神や教育理念をふまえ、質の高い幼児教育・保育・児童福祉に携わる専門職の養成を大きな柱とするとともに、高次な倫理観と豊かな教養、幅広い専門知識をもった人間性の涵養および社会や時代の変化の中で生きるための総合的な判断力を培うために、ディプロマ・ポリシーに明記した人材養成を目的に編成しています。

こども教育学部幼児教育学科のカリキュラムは、教育上の目的を達成するために必要な「総合基礎領域」および「総合専門領域」から体系的に編成しています。

1. 「総合基礎領域」は、建学の精神を理解し、大学生として必要とされる基礎的な技法、情報化社会に対応できる能力、様々な問題を考えるための教養、体験や経験に基づく知恵などを身につけるための科目のまとめです。
2. 「総合専門領域」は、質の高い保育者として必要な知識・技法を幅広く身につけるために設定した幼児教育基礎科目群、幼児教育応用科目群、幼児教育関連科目群、および幼児教育発展科目群から構成された科目のまとめです。
3. 幼児教育基礎科目群は、人としてこどもの教育・保育に関わるすべての大人が備えるべき素養を身につける科目のまとめです。
4. 幼児教育応用科目群は、幼稚園教諭という専門職養成に必要な知識と技法の修得に主眼をおいた科目のまとめです。
5. 幼児教育発展科目群は、幼児教育基礎科目群、幼児教育応用科目群および幼児教育関連科目群における学習内容を体験的に検証し、実践的能力を身につけるための科目のまとめです。
6. 幼児教育関連科目群は、保育士という専門職養成に必要な知識と技法の修得に主眼をおいた科目のまとめです。

目 次

I 教育課程について	1
1. こども教育学部幼児教育学科について.....	3
2. カリキュラムの特徴.....	4
(1) 建学の精神と基本理念.....	4
(2) 教育目標とカリキュラムの特色.....	4
3. カリキュラムの編成.....	5
(1) 授業科目の構成.....	5
(2) カリキュラム概念図.....	6
4. 4年間の学修目標および履修指針.....	7
(1) 科目一覧（2020年度入学生用）.....	9
II 本学の学修について	19
1. 学 籍.....	21
(1) 学 籍.....	21
(2) 卒業と学位.....	21
(3) 休学と復学.....	21
(4) 退 学.....	21
(5) 再入学.....	21
(6) 除 籍.....	21
2. 授 業.....	22
(1) 学 期.....	22
(2) 授業時間.....	22
(3) 時間割.....	22
(4) 授業科目の種類.....	22
(5) 授業展開.....	22
(6) 休講と補講.....	23
(7) 出 席.....	24
(8) 遅刻と早退.....	24
(9) 欠席と欠席届.....	24
(10) 授業態度.....	25
(11) 伝達事項.....	25
3. 単 位.....	25
(1) 単位制度.....	25
(2) 単位の数え方.....	25
(3) 1単位の学修量.....	26
4. 履 修.....	26
(1) 履修登録.....	26

(2) 再履修	26
(3) 単位上限制度（履修登録の追加と取り消し）	27
(4) 受講方法	27
(5) 既修得単位の認定	27
(6) 編入学生の単位認定	27
5. 授業科目の読み替え	27
6. 成績とGPA	28
(1) 試験・レポート	28
(2) 単位の修得	28
(3) 成績評価	28
(4) 成績通知	28
(5) 成績評価質問票	29
(6) GPA（科目成績平均値）制度	29
(7) GPA値による指導	29
7. アドバイザー、オフィスアワー	30
8. 授業アンケート	30
9. 卒業要件	30
10. 卒業見込要件及び卒業見込証明書発行基準	30
11. 幼稚園教諭一種免許状の取得	31
12. 保育士資格の取得	31
13. 認定ベビーシッター資格の取得	32
14. 宝仙マイスター制度について	32
15. 体験学習	32
16. 学外実習	33
Ⅲ 諸 規 則	35
学 則	37
こども教育学部幼児教育学科履修規程	54
教職課程履修規程	64
保育士養成課程履修規程	67
2019年度～入学生対象 幼稚園教諭一種免許状取得に必要な基礎資格及び最低修得単位数一覧	72
2019年度～入学生対象 保育士資格取得に必要な基礎資格及び最低修得単位数一覧	74
単位修得チェック票（卒業：2020年度入学生用）	76
単位修得チェック票（幼稚園教諭：2020年度入学生用）	80
単位修得チェック票（保育士資格：2020年度入学生用）	82

I

教育課程について

1. こども教育学部幼児教育学科について

こども教育学部

宝仙学園の校章は、皆三角形が基本になっています。こども教育宝仙大学の校章も下記の記章のとおり三角形からできています。この三角形は密教の曼荼羅に由来し、物を創造し、発展させる力を表しています。また三角形は三つの角が支えあって調和のとれた世界を構成しています。三つの力で宇宙（世界）の調和が保たれているように、教育も三つの力が支えあって完成します。

本学は、21世紀における高等教育機関にふさわしい大学として、情操豊かで、高い専門性を培う「人を造る」教育を実践していますが、「人を造る」ことには二つの意味があります。一つは、グローバル化、情報化、科学技術の発展、高齢化・少子化といった急速な社会変化に直面している現代社会において、自分自身が、広い視野に立つ判断力、他者への思いやり、高いコミュニケーション能力など、豊かな人間性を育むことで、社会に貢献し得る自立した社会人になることです。そのためには、「学生である自分」、「大学の教職員」、「学びの領域（科目）」の三つの力が調和して行かなくてはなりません。本学が用意している様々な学びを積極的に活用し、幅広い視点から問題を捉え、現代的な課題を深く考え、時には教職員の助言を得ながら、自らを表現できるようになることが望まれます。



幼児教育学科

「人を造る」ことのもう一つの意味は、4年間を通してこどもの教育・保育に関する専門的な知識と技術を習得し、教育・保育実践を着実に積み重ねることによって、こどもに寄り添いながら共感し、時に見守り、時にはげまし、時にそっと手助けできるような、実践的な保育者としての専門性を育てていくことです。

2012年8月に「子ども・子育て関連三法」が成立し、「幼保連携型認定こども園」が本格的に始動しました。そこに勤務する職員には、「保育教諭」という幼稚園教諭の免許状と保育士資格を併有することを原則とした、新たな専門職としての保育者像が求められています。さらに、現代社会では、子育て環境の変化に対応する力、障がいや社会的養護に対して適切な支援や配慮ができる力、子育てに関する保護者の多様で複雑な悩みを受け止め、助言や援助ができる力など、多様で総合的な力量と深い専門性が求められています。

「保育者としての自分」、「教育・保育の対象」、「家庭・親」という三つの力を調和させるために、幼児教育・保育に関する専門的な知識を学び、教育・保育実習で実践力を養って下さい。そして、卒業時には「家庭」、「地域社会」、「幼稚園等施設」の三者の連携を主導して「こどもの健やかな成長」を保障するという視点に立ったりーダー的な役目を担える保育者を目指すように望みます。

2. カリキュラム（教育課程）の特徴

(1) 建学の精神と基本理念

①建学の精神

本学園では、「仏教精神を基調とした人間教育によって品格と知性を兼ね備えた人を造る」ことを建学の精神としています。

本学は、学園創立以来約80年にわたり、真の教育とは単に知識や技術を植え付けるものではなく、それらを自らの人生に生かす「知恵」を養うことに他ならないという創立者の信念に基づき、一貫して少人数制教育を堅持し、人間的なふれあいと個性を大切に守り育てる教育を継承しています。

②大学の基本理念

本学は、21世紀における高等教育機関にふさわしい大学として、宗教的情操豊かで、高い専門性を培う「人を造る」教育を実践しています。つまり、グローバル化、情報化、科学技術の発展、高齢化・少子化といった急速な社会変化に直面した時代において、仏教精神に基づく慈悲・敬虔・感謝・奉仕の心に満ちた豊かな人格の育成とともに、幼児教育・保育・児童福祉等の専門的知識や技術を修得し、高次な倫理観と教養を備え、広い視野に立った判断力をもって、社会に貢献し得る人材を育てることを基本理念としています。

(2) 教育目標とカリキュラムの特色

①教育目標

本学では、建学の精神、大学の基本理念およびディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、質の高い幼児教育・保育・児童福祉に携わる専門家の養成を、教育の大きな柱としています。すなわち、

1. 人間性が豊かで社会性に富み、他者との円滑なコミュニケーションができる
2. 溢れる情報と多様化した社会の中で、変化に即した判断ができる
3. 専門知識や技術を適切に駆使でき、絶えずそれを向上させようと努力することができる

という人材の養成を教育目標としているのです。

②カリキュラムの特色

こうした教育目標を達成するために必要な授業科目・単位数・履修年次等を系列化し、教育内容を示したものをカリキュラム（教育課程）といいます。本学のカリキュラムは、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）に基づき4年間のゼミや原理原則を学ぶ講義科目、少人数の演習科目、体験的・実習的な科目、フィールドワークをともなう科目等を効果的に配置しています（カリキュラム概念図を参照してください）。科目は、「総合基礎領域」と「総合専門領域」に大別され、「総合専門領域」科目はさらに「幼児教育基礎科目群」「幼児教育応用科目群」「幼児教育関連科目群」「幼児教育発展科目群」に系統化されて、学生の能力・適性・進路に対応したカリキュラムとなってい

ます。したがって、学生は、免許・資格の取得は勿論ですが、自分自身の身につけたい専門性と進路に合わせて授業科目を選択し、意欲的に学修活動に取り組み、履修科目の単位を修得してください。

3. カリキュラムの編成

(1) 授業科目の構成

本学のカリキュラムは、2領域4科目群に区分されています。

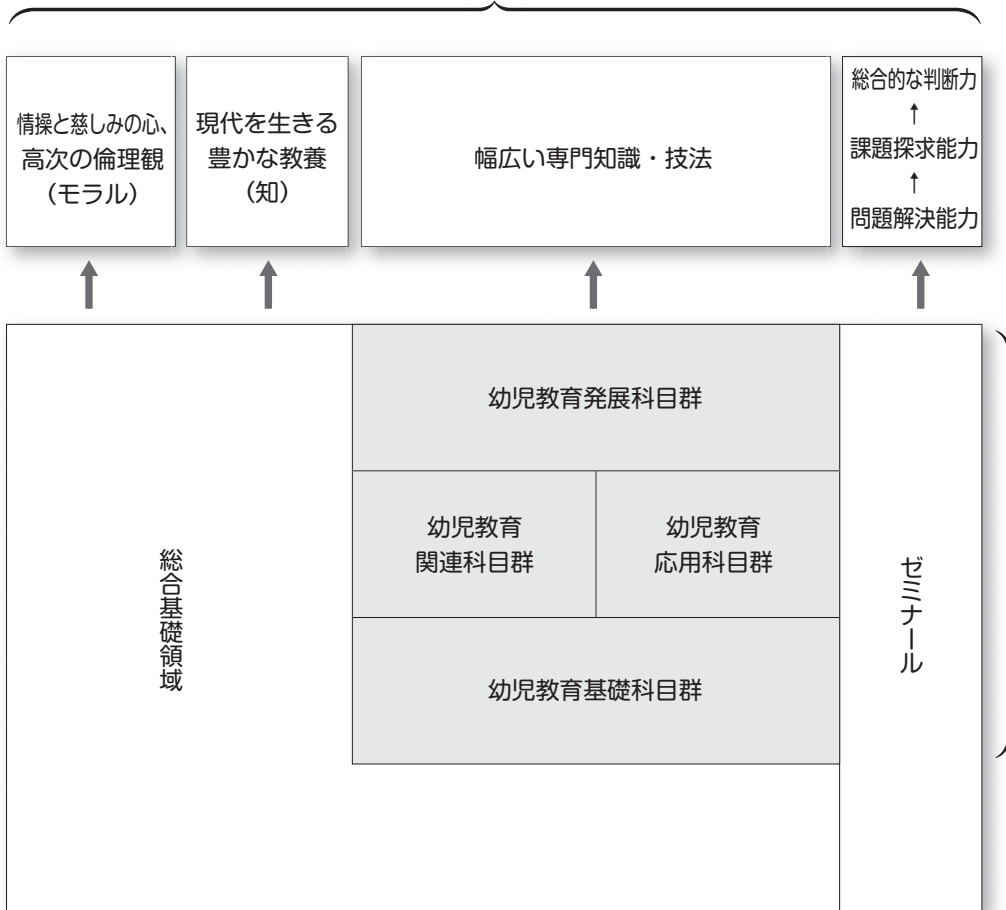
総合基礎領域	人間と社会に関する科目、外国語コミュニケーションに関する科目、情報に関する科目、基礎ゼミ科目によって構成され、幼児教育・保育者として必要な素養を養うことを目的としています。	
総合専門領域	幼児教育・保育者として必要な知識・技法を幅広く身につけることを目的としており、次の4科目群によって構成されます。	
	幼児教育基礎科目群	人としてこどもの教育・保育に関わるすべての大人が備えるべき素養を身につける科目のまとめです。
	幼児教育応用科目群	幼稚園教諭という専門的職業人養成に必要な知識と技法の修得に主眼をおいた科目のまとめです。
	幼児教育発展科目群	幼児教育基礎科目群、幼児教育応用科目群および幼児教育関連科目群における学習内容を体験的に検証し、実践的能力を身につけるための科目のまとめです。
	幼児教育関連科目群	保育士という専門的職業を目指す学生にとって必要な知識と技法の修得に主眼をおいた科目のまとめです。

以上の各領域・科目群ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目が定められています。詳細は科目一覧を参照してください。

(2) カリキュラム概念図

人を造る

- ◎ 人間性が豊かで社会性に富み、他者との円滑なコミュニケーションができる
- ◎ 溢れる情報と多様化した社会の中で、変化に即した判断ができる
- ◎ 専門知識や技法を適切に駆使でき、絶えずそれを向上させようと努力することができる



4. 4年間の学修目標および履修指針

〈1年次〉

【目標】

- ・幼児教育、保育に関わる基礎・基本を理解する。
- ・子ども、子どもを取り巻く世界を理解する。

【履修指針】

1年次は、総合基礎領域や幼児教育基礎科目群の科目を中心に履修し、幼児教育・保育・児童福祉に関する基礎・基本を学びます。「宝仙の歴史」、「宝仙の教育」では、建学の精神や伝統ある保育者養成教育の歴史を学ぶとともに、「基礎ゼミ（学問への誘い）」、「基礎ゼミ（学問に触れる）」を通して大学における学びの方法を身につけることで、主体的な学習の基盤をつくっていきましょう。

〈2年次〉

【目標】

- ・幼児教育、保育の基本的な知識や技術を習得する。
- ・幼児教育、保育、子どもへの視野を広げる。
- ・教職、保育職に就くために学んでいることを自覚する。

【履修指針】

2年次は、幼児教育応用科目群や幼児教育関連科目群の科目を中心に履修することで、より専門的な学習に入っていきます。「保育実践演習Ⅰ」、「保育実践演習Ⅱ」では、将来、幼児教育・保育職に就くことを意識しながら、保育や子どもを取り巻く今日的な課題を総合的に捉えています。また、教職・保育職への適性と保育者への就業意欲・学習等を一層促進できるよう、宝仙学園幼稚園での体験学習や一日保育所見学を履修科目と関連づけていきましょう。また、「保育実習Ⅰ（保育所）」とそれに備えた「事前事後指導」が始まります。

〈3年次〉

【目標】

- ・幼児教育、保育の知識や技術を実践の中で確認する。
- ・幼児教育、保育の専門性を深められる。

【履修指針】

3年次は、幼児教育関連科目群の選択科目や幼児教育発展科目群の科目を履修することで、専門的な学習・研究を深めていきます。自分の興味関心や進路を考えながら、子育て支援関連の科目や障害児保育関連の科目などを選択し、履修します。また、卒業研究を念頭に置いて「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」、「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」を履修します。さらに、教育実習に向けた準備として、秋学期には事前事後指導が実施されます。また、「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」を経験し、自己課題が明確になってきます。自らの課題意識をもって、主体的に学習を進めていきましょう。

〈4年次〉

【目標】

- ・教職、保育職に就くための態度、心構えが整う。
- ・理論と実践を統合して幼児教育、保育を捉えられる。

【履修指針】

4年次は、幼児教育発展科目群の科目を中心に履修していきます。この科目群の科目は、卒業や幼稚園教諭一種免許状取得に必要な不可欠なものばかりで、4年間の学習のまとめになります。卒業研究の完成を目指し、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」も履修します。卒業研究は、4年間の集大成となると同時に、卒業後の教育研究活動や職業の芽となるものです。また、春学期には「教育実習」、秋学期には「保育・教職実践演習（幼）」を履修することで、保育者としての自分の能力・適性・課題について確認することになります。

(1) 科目一覧 (2020年度入学生用)

○印は必修科目、△印は選択必修科目、無印は選択科目を示します。

★印の科目は、表示された年次の中で1回のみ履修可能です。

幼免・保育士欄の斜線は、当該資格取得の単位としてはカウントされないことを示します。

教職区分は、本学における授業科目を教育職員免許法及び同施行規則に定める分類により区分したものです。

(「領域」：領域及び保育内容の指導法に関する科目、「基礎的理解」：教育の基礎的理解に関する科目、「道徳、総合」：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、「実践」：教育実践に関する科目、「独自」：大学が独自に設定する科目、「66条の6」：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目、「-」：教職課程には分類されない科目)

総合基礎領域

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	教職区分	備考
宝仙の歴史	1	1年	春	○	/	△	-	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
宝仙の教育	1	1年	秋	○	/	△	-	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論(歴史)	2	2年	春	○	/	△	-	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論(思想)	2	2年	秋		/	△	-	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
人間形成論	2	★1・2・3・4年	秋		/	△	-	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
現代の倫理と宗教	2	★1・2・3・4年	春		/	/	-	
異文化理解	2	★1・2・3・4年	秋		/	△	-	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
日本国憲法	2	★1・2・3・4年	秋		○	△	66条の6	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
職業と社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	-	
現代女性論	2	★1・2・3・4年	春		/	/	-	
子どもと親のストレスマネジメント	2	★1・2・3・4年	春		/	/	-	
暮らしの中のコンピュータ	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	-	
生と死を考える	2	★1・2・3・4年	春		/	/	-	
食育と現代社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	-	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼児	保育士	教職区分	備考
地球と環境	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	-	
健康スポーツ理論	1	1年	秋	○	○	○	66条の6	
健康スポーツ実技	1	1年	春	○	○	○	66条の6	
英語(初級)	1	1年	春	○	○	○	66条の6	
英語(中級)	1	1年	秋	○	○	○	66条の6	
英語コミュニケーション(初級)	1	2年	春	△		/	66条の6	英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
英語コミュニケーション(中級)	1	2年	秋	△		/	66条の6	英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
実践英語(初級)	1	★3・4年	春			/	66条の6	
実践英語(上級)	1	★3・4年	秋			/	66条の6	
基礎韓国語(入門)	1	2年	春	△		/	66条の6	英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
基礎韓国語(初級)	1	2年	秋	△		/	66条の6	英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
韓国語コミュニケーション(入門)	1	★3・4年	春			/	66条の6	
韓国語コミュニケーション(初級)	1	★3・4年	秋			/	66条の6	
情報処理演習(基礎)	2	1年	春	○	○	△	66条の6	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
情報処理演習(応用)	2	1年	秋	○		/	66条の6	
マルチメディア演習	2	★2・3年	春			/	66条の6	
プレゼンテーション演習	2	★3・4年	春			/	66条の6	
基礎ゼミ(学問への誘い)	2	1年	春	○		/	-	
基礎ゼミ(学問に触れる)	2	1年	秋	○		/	-	
こども食育実践論	2	4年	春・秋		/	/	-	
身体遊び実践論	2	4年	春・秋		/	/	-	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	教職区分	備考
音楽実技Ⅰ	1	1年	秋		/	/	-	
音楽実技Ⅱ	1	2年	春		/	/	-	
地域文化体験	2	2年	春		/	/	-	※2
国外保育体験	2	★3・4年	秋		/	/	-	※2
必修科目必要単位数				16	8	4		
選択必修科目必要単位数				2	0	6		保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
選択科目単位数				※1		0		

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます

※2 GPA値による登録制限単位数の上限にかかわらず履修できる。また、希望者は2度の履修が可能。ただし単位は一度のみ付与される。

選択必修外国語科目は「英語コミュニケーション（初級）」（2年春）・「英語コミュニケーション（中級）」（2年秋）または「基礎韓国語（入門）」（2年春）・「基礎韓国語（初級）」（2年秋）のいずれかを選択してください。なお、両方を履修することはできません。

<履修条件>

「基礎ゼミ（学問に触れる）」（1年秋）は、
「基礎ゼミ（学問への誘い）」（1年春）と同一クラスで履修すること。

「英語コミュニケーション（初級）」（2年春）および
「英語コミュニケーション（中級）」（2年秋）を履修するためには、
「英語（初級）」（1年春）および「英語（中級）」（1年秋）の単位を修得していること。

「韓国語コミュニケーション（入門）」（★3・4年春）を履修するためには、
「基礎韓国語（入門）」（2年春）および「基礎韓国語（初級）」（2年秋）の単位を
修得していること。

<マイスター認定条件>

以下の条件を満たしたうえで、担当教員が認定するにふさわしい者にマイスターの認定がなされる。

I. 食育おやつマイスター

「こどもの食と栄養（健康と食生活）」、「こどもの食と栄養（発達と食生活）」、「食育と現代社会」および「こども食育実践論」の単位を修得しており、上記4単位の平均GPAが2.5以上であること。

II. 身体遊びマイスター

「体育演習」、「障害児の発達と運動遊び」、「リトミック」および「身体遊び実践論」の単位を修得しており、上記4単位の平均GPAが2.5以上であること。

III. 異文化・国際理解マイスター

「英語コミュニケーション（中級）」又は「韓国語コミュニケーション（初級）」、ならびに「異文化理解」、「実践英語（上級）」および「こども英語指導法」の単位を修得して上記4単位の平均GPAが2.5以上であること。また、「国外保育体験」の単位を修得もしくは国内の相当する外国人学校等での体験をしていること。

総合専門領域 ①幼児教育基礎科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	教職区分	備考
教育原理	2	1年	春	○	○	○	基礎的理解	
教育制度論	2	1年	秋		○	△	基礎的理解	総合専門領域で保育士15単位選択必修
教職・保育職概論	2	2年	春	○	○	○	基礎的理解	
保育カリキュラム論	2	2年	秋		○	○	基礎的理解	
発達心理学	2	1年	春		○	○	基礎的理解	
こどもの理解と援助	1	2年	秋		/	○	-	
保育の現場を知るⅠ	2	1年	春	○	○	/	独自	
保育の現場を知るⅡ	2	1年	秋	○	○	△	独自	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育の現場を知るⅢ	2	2年	春	○	○	△	独自	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育の現場を知るⅣ	2	2年	秋	○	○	/	独自	
特別支援教育概論	2	3年	春		○	/	基礎的理解	
必修科目必要単位数				12	20	9		
選択必修科目必要単位数				0	0	備考欄参照		保育士は総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1				

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

特になし

総合専門領域 ②幼児教育応用科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	教職区分	備考
ことばとコミュニケーション	2	1年	春		○	△	独自	
音楽と表現Ⅰ	1	1年	春		○	○	独自	
音楽と表現Ⅱ	1	2年	秋		○	○	独自	
造形と表現	1	2年	春		○	○	独自	
身体と表現	1	1年	春		○	○	独自	
保育内容総論	2	1年	秋		○	○	領域	
保育内容(環境)	2	3年	春		○	○	領域	
保育内容(人間関係)	2	3年	春		○	○	領域	
保育内容(健康)	2	2年	秋		○	○	領域	
保育内容(表現)	2	2年	秋		○	○	領域	
保育内容(言葉)	2	1年	秋		○	○	領域	
保育内容の指導法Ⅰ	2	3年	春		○	△	領域	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育内容の指導法Ⅱ	2	3年	秋		○	△	領域	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育方法論	2	3年	春		○	△	道徳、総合	総合専門領域で保育士15単位選択必修
こども理解と教育相談	2	3年	春		○	△	道徳、総合	総合専門領域で保育士15単位選択必修
こども英語指導法	2	★3・4年	秋		△	△	-	
保育実践演習Ⅰ	2	2年	春	○	△	○	-	
保育実践演習Ⅱ	2	2年	秋	○	△	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
必修科目必要単位数				4	26	18		
選択必修科目必要単位数				0	0	備考欄参照		保育士は総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1				

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

「保育実践演習Ⅱ」(2年秋)を履修するためには、
「保育実践演習Ⅰ」(2年春)と同一クラスで履修すること。

総合専門領域 ③幼児教育発展科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	教職区分	備考
教育実習	4	4年	春		○	/	教育実践	
教育実習事前事後指導	1	4年	春		○	/	教育実践	
保育・教職実践演習(幼)	2	4年	秋		○	/	教育実践	
専門研究ゼミⅠ(講読と発表)	2	3年	春	○	/	/	-	
専門研究ゼミⅠ(調査と発表)	2	3年	秋	○	/	/	-	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の基礎)	2	4年	春	○	/	/	-	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の完成)	2	4年	秋	○	/	/	-	
必修科目必要単位数				8	7	0		
選択必修科目必要単位数				0	0	0		
選択科目単位数				※1				

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

「教育実習」を履修するためには、

- ① 「教育原理」(1年春)、「教職・保育職概論」(2年春)、「発達心理学」(1年春)および「保育カリキュラム論」(2年秋)の単位を修得し、なおかつ当該学期の「教育実習事前事後指導」を履修していること。
- ② 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「専門研究ゼミⅠ(講読と発表)」(3年春)を履修するためには、

「基礎ゼミ(学問への誘い)」(1年春)、「基礎ゼミ(学問に触れる)」(1年秋)、「保育実践演習Ⅰ」(2年春)および「保育実践演習Ⅱ」(2年秋)の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅠ(調査と発表)」(3年秋)を履修するためには、

「専門研究ゼミⅠ(講読と発表)」(3年春)の単位を修得していること。

また、「専門研究ゼミⅠ(講読と発表)」(3年春)と同一クラスで履修すること。

「専門研究ゼミⅡ(卒業研究の基礎)」(4年春)を履修するためには、

「専門研究ゼミⅠ(調査と発表)」(3年秋)の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅡ(卒業研究の完成)」(4年秋)を履修するためには、

「専門研究ゼミⅡ(卒業研究の基礎)」(4年春)の単位を修得していること。

また、「専門研究ゼミⅡ(卒業研究の基礎)」(4年春)と同一クラスで履修すること。

総合専門領域 ④幼児教育関連科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	教職区分	備考
保育原理(意義と本質)	2	1年	春	○	/	○	-	
保育原理(保育ニーズの多様化)	2	1年	秋		/	○	-	
社会福祉	2	1年	春		/	○	-	
こども家庭福祉	2	1年	秋		/	○	-	
保育相談支援	1	2年	秋		/	○	-	
こどもの保健	2	2年	春		/	○	-	
こどもの健康と安全	1	2年	春		/	○	-	
こどもの食と栄養(健康と食生活)	1	1年	春		/	○	-	
こどもの食と栄養(発達と食生活)	1	1年	秋		/	○	-	
社会的養護Ⅰ	2	1年	秋		/	○	-	
家庭支援論	2	2年	秋		/	○	-	
社会的養護Ⅱ	1	2年	春		/	○	-	
乳児保育Ⅰ	2	2年	春		/	○	-	
乳児保育Ⅱ	1	2年	秋		/	○	-	
障害児保育演習(理念と援助)	1	2年	春		/	○	-	
障害児保育演習(現状と課題)	1	2年	秋		/	○	-	
子育て支援論	2	2年	春		/	○	-	
子育て支援カウンセリング	2	★3・4年	秋		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(基礎)	2	★3・4年	春		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(応用)	2	★3・4年	秋		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
児童文化	2	4年	秋		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	教職区分	備考
絵本と児童文学	2	★3・4年	春		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
リトミック	2	★3・4年	秋		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
障害児の発達と運動遊び	2	★3・4年	春		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
地域社会とこども家庭福祉	2	★3・4年	春		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
在宅保育論	2	4年	秋		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修 「認定ベビーシッター」資格取得必修
歌遊び	2	★3・4年	春		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
音楽遊び	2	3年	秋		/	△	-	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育実習Ⅰ(保育所)	2	3年	春		/	○	-	
保育実習Ⅰ(保育所)事前事後指導	1	3年	春		/	○	-	
保育実習Ⅰ(施設)	2	3年	春または秋		/	○	-	
保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導	1	3年	春または秋		/	○	-	
保育実習Ⅱ(保育所)	2	3年	秋		/	△	-	保育実習Ⅱ(保育所)と「保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導」、または「保育実習Ⅲ(施設)」と「保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導」のいずれかを選択必修し、3単位を修得すること。
保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導	1	3年	秋		/	△	-	
保育実習Ⅲ(施設)	2	3年	秋		/	△	-	
保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	1	3年	秋		/	△	-	
必修科目必要単位数				2	0	32		
選択必修科目必要単位数				0	0	3		左記のほか保育士は総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1	0			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

「保育実習Ⅰ」関係

「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修するためには、

- ① 「保育原理（意義と本質）」（1年春）、「発達心理学」（1年春）、「保育内容総論」（1年秋）、及び「保育の現場を知るⅢ」（2年春）のうち3科目以上の単位を修得していること。
- ② 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修するためには、

当該学期の「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修していること。

「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修するためには、

- ① 「保育原理（意義と本質）」（1年春）、「発達心理学」（1年春）、「こども家庭福祉」（1年秋）、および「社会的養護Ⅰ」（1年秋）のうち3科目以上の単位を修得していること。
- ② 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅰ（施設）」を履修するためには、

当該学期の「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修していること。

「保育実習Ⅱ」関係

「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修するためには、

- ① 「保育実習Ⅰ（保育所）」および「保育実習Ⅰ（施設）」の単位を修得していること。
- ② 「家庭支援論」（2年秋）、「保育内容（環境）」（3年春）、「保育内容（人間関係）」（3年春）、「保育内容（健康）」（2年秋）、「保育内容（表現）」（2年秋）および「保育内容（言葉）」（1年秋）のうち5科目以上の単位を修得していること。
- ③ 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修するためには、

当該学期の「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修していること。

「保育実習Ⅲ」関係

「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修するためには、

- ① 「社会的養護Ⅰ」（1年秋）、「社会的養護Ⅱ」（2年春）、「障害児保育演習（理念と援助）」（2年春）、「保育実習Ⅰ（保育所）」（3年春）、「保育実習Ⅰ（施設）」（3年春または秋）の単位を修得していること。
- ② 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅲ（施設）」（3年秋）を履修するためには、

当該学期の「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」（3年秋）を履修していること。

II

本学の学修について

1. 学 籍

(1) 学 籍

学籍は、入学手続きによる学費の納入および指定された手続き書類の提出により発生し、各学期の学費の納入により継続されます。学費が納入されない場合は学籍が消滅する場合がありますので、学費は指定期日までに必ず納入してください。

(2) 卒業と学位

本学に4年以上在学し、卒業に必要な単位（2019年度以降入学生124単位以上）を修得し、累積GPA1.5以上を修得すると、学士の学位が授与されます。

こども教育宝仙大学	Hosen College of Childhood Education
こども教育学部	Faculty of Childhood Education
幼児教育学科	Department of Early Childhood Education
学士（幼児教育）	Bachelor of Arts (Early Childhood Education)

(3) 休学と復学

留学や病気またはその他やむを得ない事情により3か月以上学業を継続できない場合は、保証人、アドバイザーに相談のうえ、事務部に「休学願」を提出してください。教授会の議を経て1年以内に限り休学を許可することがあります。なお特別に事由があると認められたときは、更に1年以内に限り休学が認められることがあります。

休学の事由が解消し復学を希望する場合は、「復学願」を事務部に提出してください。

(4) 退 学

退学を希望する場合は、保証人、アドバイザーと相談し、慎重に検討した後、保証人連署・捺印のうえ事務部に「退学願」を提出してください。退学については、学長の許可を得なければなりません。また、「退学願」提出時に学生証を返却してください。

(5) 再入学

本学を退学した者が、退学した日から2年以内に再入学を志願する場合は、所定の手続きにより選考の上、再入学を許可することがあります。

(6) 除 籍

学則第39条の各号のいずれかに該当するものは、教授会の議を経て学長が除籍を行います。

2. 授 業

(1) 学 期

学期は下記の通り春学期、秋学期の2学期が定められており、授業は4月から翌年3月までの1年を春と秋の2学期に分けて行います。授業は、学期ごとに完結します。

春 学 期	4月1日～9月14日
秋 学 期	9月15日～3月31日

(2) 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

(3) 時間割

春学期および秋学期の時間割は、春学期のオリエンテーション前にポータルサイトで配布します。

(4) 授業科目の種類

本学では、授業科目が次の3種類に分かれています。

卒業必修科目	卒業に不可欠な科目で、必ず単位修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された複数科目の中から、必要な単位を修得しなければならない科目
選 択 科 目	設定されている科目の中から、自由に選択し、単位を修得する科目

※卒業に必要な科目と免許・資格に必要な科目は異なる場合があります。

(5) 授業展開

本学では、少人数教育による学生に対する教育効果の向上および授業における細やかな指導を目的として、A・B・Cの3分割を中心に、49人以下の履修クラスに分割して授業を行うことがあります。また、1年次から4年次にわたるゼミは6～10分割されています。

A・B・Cの履修クラスは、入学時に学籍番号順により決定します。なお、原則として、卒業時まで同一の履修クラスとなります。

本学の授業は、各科目により履修クラスが設定されています。講義科目は1学年全体で受講し、演習系科目は主にA・B・Cの履修クラスに分かれて受講します。またその他にも、履修クラスをさらに4つに分けて行う授業などもあります。履修クラス等の詳細は、授業開講前にオリエンテーションもしくはポータルサイトでお知らせします。

(6) 休講と補講

大学または授業担当教員のやむを得ない事情・災害等により、授業を休講にすることがあります。休講の連絡は原則ポータルサイトもしくは掲示にて行います。

授業が休講になった場合は、補講を行います。補講は、補講期間および授業期間中の空いている時間帯に行い、補講の連絡はポータルサイトにて行います。

1) 休講措置について

1. 大学及び学園行事による休講

大学及び学園行事等により休講することがあります。その場合は、年度当初に示す学事予定表に記載します。

2. 教員の都合による休講

授業担当教員の都合によりやむを得ず休講する場合は、ポータルサイトに掲示します。

休講の掲示がなく、授業開始時刻から30分以上経過しても授業が始まらない場合は、事務部教務課の指示に従ってください。

3. 交通障害等による休講

交通ストライキ、又は暴風、大雨、大雪等自然災害により東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線の両方が全面不通または長時間にわたり運休した場合は、次の休講措置をとります。

その他、学長が特別に必要と判断した場合にも臨時休講措置をとる場合があります。

授業実施時限	休講と判断する時点
1・2限の授業	午前6時
3・4・5限の授業	午前10時

4. 気象関係での休講

気象庁・地方气象台から発表される警報で「暴風警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」、が、東京都23区全域に発表された場合（大雨・洪水・波浪警報除く）は、その時点で全学休講とします。ただし、以下の場合は休講を解除し、授業を再開します。

授業実施時限	警報解除の時刻
平常どおり実施	午前6時までに解除された場合
3・4・5限の授業実施	午前10時までに解除された場合
全日休講	午前10時までに解除されない場合

なお、警報が発表されていない場合でも、気象状況が悪化し、登下校の危険が予測される場合は、学長の判断により全学休講とすることがあります。

5. 大規模地震の警戒宣言等の発令による休講

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想され、「大規模地震対策特別措置法」に基づき「地震防災強化地域判定会」※が召集されたことが報道された場合、直ちに授業を中止し、休講とします。翌日以降については、以下のとおりとします。

授業実施時限	警戒宣言の状況
平常どおり実施	午前6時までに発令されていない場合または解除された場合
全日休講	午前10時までに解除されない場合

※地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条第1項に規定する地震対策強化地域に係わる大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって召集される判定会を指す。

6. 休講措置をとった場合の補講または追加授業の実施について

上記2～5いずれかの場合で休講になった場合は、原則として補講または追加授業が実施されますので、必ずポータルサイトを確認してください。

7. 実習時における対応

実習中に発生した交通障害、気象災害等については、実習園・施設の指示に従ってください。なお、実習中止等の場合は、実習指導室へ届け出てください。

8. その他

大規模地震、広域火災等が発生し、通学が極めて困難で危険な場合、休講等の措置をとることがあります。

(7) 出席

授業には毎回必ず出席することが前提であり、毎回出欠をとります。単位認定を受ける資格を得るためには、学則に規定する授業回数の3分の2以上の授業への出席が必要です。

(8) 遅刻と早退

遅刻は授業開始から30分以内とし、それを超えると欠席とみなします。早退は授業開始1時間以上を過ぎてからとなり、それ以前に退室すると欠席になります。また、遅刻・早退3回で欠席1回とみなされます。

(9) 欠席と欠席届

各科目とも規定の全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、単位認定を受ける資格がなくなり、当該学期に該当科目の単位は修得できません。

授業を欠席する際は、事前または事後に学生のみなさんが、直接、授業担当教員に欠席の連絡を行ってください。事務部では電話による欠席連絡および授業担当教員への伝言は受け付けません。

忌引き、出席停止にかかる病気（学生ハンドブック参照）、1週間以上の病気等により授業を欠席する（欠席した）場合は、そのことが証明できる書類（会葬礼状、治癒証明書など）を事務部に

提出してください。また、事務部で欠席届を受け取り、必要事項を記入後、事務部で検印を受けてください。その後、欠席届を授業担当教員に提出してください。

教育実習あるいは保育実習における園・施設での事前オリエンテーションにより授業を欠席する場合は、実習指導室で欠席届を受け取り、必要事項を記入後、実習指導室で検印を受けてください。また、検印を受けた欠席届は、必ず授業担当教員に提出してください。

また、就職活動に関する欠席については、「4年次就職活動の手引き」を参照してください。

なお、欠席届の提出にかかる欠席は、あくまで理由のある欠席として取り扱われるだけで、出席となるわけではありません。

事由	証明できる書類等	一次提出先	最終提出先
病気による入院等	治癒証明書等	事務部教務・学生課	授業担当教員
冠婚葬祭	会葬礼状等	事務部教務・学生課	授業担当教員
実習関連	別途指示	実習指導室	授業担当教員
就職関連	就職試験受験証明書	就職指導室	授業担当教員

(10) 授業態度

授業は、単に出席しているだけでは十分ではありません。授業への積極的な参加や取り組みは、皆さんの学びにつながり、課題やレポート作成は、授業内容を再確認する良い機会となるとともに、新たな発見を導きます。授業へは問題意識を持って臨み、課題やレポートは指定期日までに必ず提出してください。

(11) 伝達事項

大学から学生のみなさんへの伝達、連絡は、原則としてポータルサイトもしくは掲示により行います。ポータルサイトには大学生生活を送るうえで重要な情報がたくさん存在しています。必ず毎日確認してください。

3. 単位

(1) 単位制度

授業科目にはそれぞれに単位が定められています。大学を卒業するためには、定められた科目を履修し、それらの科目の単位を修得しなければなりません。このように、必要な授業の単位を修得することにより卒業が認められる制度を、単位制と言います。

(2) 単位の数え方

講義・演習科目	15時間の授業時間をもって1単位とします。ただし、特に必要とする場合は、30時間の授業時間をもって1単位とします。
外国語科目	30時間の授業時間をもって1単位とします。
実験・実習および音楽・体育等実技科目	30時間の授業時間をもって1単位とします。ただし、特に必要とする場合は、45時間の授業をもって1単位とします。

(3) 1単位の学修量

1単位を修得するためには45時間の学修量が必要です。

学修量は、自宅での予習、大学の授業内での学修、自宅での復習から成り立っています。

なお授業は、1講義あたり90分を授業時間の2時間と換算しています。

(例) 講義科目の場合

① 2単位を修得するためには → 90時間の学修量が必要となります。

② 週1回の授業90分(2時間)を受講するためには → 自宅での2時間の予習と、2時間の復習をしなければならないことになっています。

言いかえれば、1回の授業への参加は

予習2時間+授業2時間+復習2時間=6時間の学修量

となります。

本学の授業は1科目15週にわたって行い

授業1回の学修量6時間×授業15週間=90時間の学修量

となります。

4. 履修

(1) 履修登録

履修登録とは、その年度に受講する科目を登録することです。履修登録は、学生のみなさんの責任において行うものです。履修登録を行っていない科目の単位は認められません。また、履修登録を行っていない授業を受講することはできません。授業計画や内容の概略を記したWebシラバスを参照の上、受講科目を決定し、履修登録を行ってください。

本学の履修登録は、原則4月に当該年度の春・秋学期1年分を行います。履修登録は、定められた期間(履修登録期間)に行わなければなりません。なお、春学期の成績(GPA値)に応じて秋学期に履修登録の追加・取り消しを認めています。

履修登録を行う際は、アドバイザーに相談し、履修指導を受けてください。

(2) 再履修

再履修とは、履修登録を行ったものの単位認定されなかった科目について、翌年度に再度、履修することです。なお、特例を除き、すでに単位を修得した科目を再び履修することはできません。再履修科目の場合は、受講人数のバランス等を考慮し、クラスを編成します。学生は、指定されたクラスで授業を受講してください。

(3) 単位上限制度（履修登録の追加と取り消し）

本学では、適切な学修時間を確保するために、学期ごとに履修登録が可能な単位数合計の上限を、原則20単位としています。（1年次のみ若干の例外を認めています。）しかし、直前の学期におけるGPA値（Grade Point Average）によっては、履修登録単位数を変更することが出来ます。GPAについてはp.28（6. 成績とGPA）を参照してください。

GPA値による登録可能単位数の上限は、次のとおりです。

GPA値	2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上3.5未満	3.5以上
登録可能単位数	18単位	20単位	22単位	24単位

なお、GPA値に応じた秋学期の追加履修登録に関しては、学生が自身の学修計画等により、追加の有無を決定することができます。ただし、あらかじめ秋学期の登録単位数を20単位以上にしていたものの、春学期のGPA値が2.0未満になった学生は、必ず履修登録の取り消しを行わなくてはなりません。

(4) 受講方法

学生は、授業開始時間前に教室に入り、授業を受ける準備をしてください。教室の座席は、授業担当教員の指示に従ってください。

本学の授業では、授業毎に毎回、出欠席の確認を行います。出欠席の確認方法は、授業担当教員によって異なり、課題提出等により行う場合もあります。授業は、学生が毎回出席することを前提として計画されています。欠席が多くなると、授業の理解が難しくなり、学生自身が不利となることがあります。授業の理解を深め、確実に知識を身につけるためにも、授業には毎回出席してください。

(5) 既修得単位の認定

本学に入学する以前に他大学で履修した授業科目および修得した単位は、教授会の議を経て認定することがあります。既修得単位の認定を希望する場合は、事務部教務課に申し出てください。

(6) 編入学生の単位認定

本学では、編入学生の入学前既修得単位の認定について、原則として60単位を上限とし、包括して認定します。

また、専修学校の専門課程卒業者も短期大学卒業者と同等の扱いになりますが、学習歴により本学で履修科目等の指導を行います。

5. 授業科目の読み替え

教育課程（カリキュラム）は、入学時の内容が卒業まで適用されます。当該年度に履修した授業科目が不合格となり、単位修得できない場合は、原則次年度以降に再履修します。その授業科目が当該年度に廃止されていた場合、この授業科目の代わりに、別の授業科目を履修し、単位を修得することで、廃止された授業科目の単位を修得したものとして読み替えることがあります。授業科目

の読み替えについては、Webシラバスサイト内の『読替対応表』を参照してください。

6. 成績とGPA

(1) 試験・レポート

各授業においては、授業担当者がシラバス内にて明記した方法で成績評価をします。

試験は、授業担当者の指示の下に厳正、厳粛、公正に行われるものです。不正行為または不正行為とみなされるような行為は厳に謹んでください。万が一不正行為が発覚した場合は、当該授業の単位が認められない他、学則第72条に基づいて厳しい処分を受けることとなります。

レポートや課題についても、他人の文章を安易に引用したり、コピー・アンド・ペースト（文章やデータなどを複製・複製し、それを別の場所へ転写・貼付する行為）したりすることは、不正行為とみなされる場合があります。引用・参考文献等を用いる場合は、必ず出典を明示してください。

なお、レポートや課題の提出方法については、授業担当教員の指示に従ってください。

(2) 単位の修得

授業科目を履修登録し、授業への出席・参加、課題、レポート提出、試験等を総合的に判断して合格となった場合は、修得単位として認定されます。

ただし、授業の3分の1を超えて欠席した場合は、評価判定の対象外となり、単位の修得ができません。また、認定にあたっては、当該学期の学納金が完納されていなければなりません。

(3) 成績評価

授業科目の成績評価は、各授業担当教員が行い、下記のとおり「評価標記」で示されます。

評価標記	評 価	合 否	Grade Point
S	100点～90点	合 格	4
A	89点～80点	合 格	3
B	79点～70点	合 格	2
C	69点～60点	合 格	1
F	59点以下、または、 単位認定を受ける資格なし	不 合 格	0

単位認定を受ける資格を得るためには、学則に規定する授業回数の3分の2以上の授業への出席が必要です。したがって、各科目とも、規定の全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、単位認定を受ける資格がなくなり、当該学期に該当科目の単位は修得できません。

(4) 成績通知

春学期の成績表は9月に、秋学期の成績表は3月にポータルサイトにて確認できます。また、保証人へ郵送します。

(5) 成績評価質問票

成績発表とともに「成績評価質問票」をポータルサイトにて配付します。自身の成績評価に対して、質問、疑問がある場合は、「成績評価質問票」に必要事項を記入し、指定期日までに事務部教務課へ提出してください。提出された「成績評価質問票」は、授業担当者が質問に答えた後、事務部教務・学生課を通して結果を学生に通知します。

(6) GPA（科目成績平均値）制度

成績評価について、GPA（Grade Point Average）制度を設けています。GPAは、成績を5段階のGrade Pointで評価し（p.28の表を参照）、獲得ポイントの合計を履修登録した総単位数（※一部非対象）で割った、1単位あたりの成績の平均値です。本学では、GPA値を、卒業判定や教育実習・保育実習の受講、次学期の履修登録単位数の上限値、奨学金採用者決定、必修ゼミ決定の際の選考等に利用しています。

GPAの算出式

$$\text{GPA値} = \frac{4 \times \text{Sの修得単位数} + 3 \times \text{Aの修得単位数} + 2 \times \text{Bの修得単位数} + 1 \times \text{Cの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (F (不合格)の単位数を含む) ※}}$$

GPA算出式の分母は、履修登録したすべての科目（※一部非対象）が対象となり、不合格科目や成績不良科目が多いとGPA値が低くなります。また、本学ではGPA値は卒業要件の1つでもあるため、履修登録は慎重に行ってください。

(7) GPA値による指導

ひとつの学期におけるGPA値が2.0未満である場合は、当該学生に対してアドバイザーが指導を行います。また、2.0未満の学期が2回連続した場合または通算3回となった場合は、学生および保証人に対してアドバイザーが指導を行います。さらに2.0未満の学期が3回連続した場合または通算4回となった場合は、教授会の議を経て、本人および保証人に対し、学部長が在学について意思確認ならびに嚴重注意を行います。

7. アドバイザー、オフィスアワー

本学では、学生のみなさんが有意義で充実した大学生活を送れるよう、アドバイザー制度を設けています。学生は1年次から4年次まで、必ずいずれかのゼミに所属し、所属するゼミの授業担当教員がアドバイザーとなります。アドバイザーは、履修相談の他、学修上の問題や友人関係など、学生生活全般にわたり指導・助言を行います。

また、学生が学修上の質問や相談、指導を受けるための時間をオフィスアワーといいます。本学では、全ての専任教員が週2コマ（180分）のオフィスアワーを設け、学生の相談を受けるために研究室に在室しています。年度初めに、教員のオフィスアワーの時間帯およびメールアドレスを掲示等によりお知らせします。質問や相談等がある学生は、メールなどで予約をとり、相談してください。

8. 授業アンケート

本学では、各学期に対象の授業について授業アンケートを実施しています。授業アンケートに記入された学生の意見は、今後の授業運営および計画における貴重な意見として役立てていきます。学生のみなさんは、積極的にアンケートに答えてください。

9. 卒業要件

- ①本学に4年以上在学し、所定科目につき合計124単位以上を修得した上で、入学時からの累積GPAのポイントが1.5以上であることが卒業要件となります。
卒業が認定された者には、「学士（幼児教育）」の学位が授与されます。
- ②GPAポイントによる（1.5以上という）卒業の要件を満たせず留年となる学生に対しては、次年度に、新たな履修登録を認めます。また特例として、すでに単位を修得した科目の再履修を認め、以前の評価と比較し、高い方の成績評価で単位を認定します。なお、修得単位数不足による留年に対しては、この特例による再履修は認められません。
- ③留年した学生の卒業の時期は、学年の終了日です。ただし、春学期の終了日までに卒業要件を満たした場合は、卒業の時期を春学期の終了日とすることができます。

10. 卒業見込要件及び卒業見込証明書発行基準

下記の全てを満たしていること

- ・「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」（4年春）および「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」（4年秋）を履修していること。
- ・卒業に必要な単位（124単位以上）を履修していること。

11. 幼稚園教諭一種免許状の取得

幼稚園に教諭として就職を希望する場合は、必ず幼稚園教諭の免許状を取得しなければなりません。幼稚園教諭の免許状は、教育職員免許法に規定されており、本学で取得できる幼稚園教諭の免許状は、「一種免許状」です。この免許状を取得するためには、免許状取得に必要な単位、すなわち、大学での授業の単位および教育実習の単位を修得しなければなりません。特に、「教育実習」には履修条件があり、この条件を満たさない場合は、教育実習が中止・延期となります。このように免許状は、大学を卒業すれば自動的に取得できるものではなく、自分の意志で取得するものです。

【幼稚園教諭一種免許状取得見込証明書】

下記の全てを満たしていること

- ・卒業見込証明書の発行が可能な者。
- ・「教育実習」、「教育実習事前事後指導」、「保育・教職実践演習（幼）」を履修していること。

12. 保育士資格の取得

本学のこども教育学部幼児教育学科は、教員養成を主たる目的とする学科ですが、あわせて、「指定保育士養成施設」として指定を受けており、学生は保育士資格を取得することができます。

指定保育士養成施設である本学で学ぶ学生は、指定された科目を履修し、保育士資格取得に必要な単位を修得、あわせて、卒業に必要な単位を修得することになります。

本学が指定した科目については、科目一覧表に示してありますので、確認してください。

資格取得については、卒業後に住民票のある都道府県の知事に対し、申請書および必要書類の提出をしなければなりません。不備がないことが確認されると保育士登録簿に登録され、「保育士証」が交付されます。保育士証が交付されることで、「保育士」として仕事に就く事ができます。詳細については、4年次にガイダンスを行いますので必ず出席してください。

保育士資格は自動的に手に入るものではなく、自ら積極的に学ばなければ、必要な単位は修得できませんし、自らが理想とする保育者にはなれません。このことを頭に置いて、真面目に日々の学修に取り組んでください。

【指定保育士養成施設卒業見込証明書】

下記の全てを満たしていること

1. 卒業見込証明書の発行が可能な者。
2. 「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」および「保育実習Ⅰ（施設）」と「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」の単位を修得していること。
3. 「保育実習Ⅱ（保育所）」と「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」または「保育実習Ⅲ（施設）」と「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」の単位を修得していること、または履修していること。

13. 認定ベビーシッター資格の取得

認定ベビーシッターは、公益社団法人全国保育サービス協会が認定する資格です。

本学は、公益社団法人全国保育サービス協会が指定する「認定ベビーシッター資格取得指定校」になっています。

資格を取得するためには、保育士資格取得に必要な科目単位の修得のほか、認定ベビーシッターに関する専門科目である「在宅保育論」（4年秋）の単位を修得し、協会に申請することにより資格を取得することができます。

なお、資格を取得するためには、所定の登録および認定証の交付手数料が必要です。登録証の有効期間は、登録日から5年間で、再登録すれば期限なしで認定ベビーシッター資格を取得したことになります。

14. 宝仙マイスター制度について

宝仙マイスター制度とは、保育者としての専門的な知識・技術に加えて、もう1つの力をつけることができる本学独自の制度です。保育者としての専門的な知識や技術の上に、さらに能力を磨きたいと考える分野を選択し、設定されたカリキュラムに沿って単位等を修得していき、一定の条件を満たすことによってマイスター認定証が学長より授与されます。マイスター認定者は、履歴書に記載が出来ます。

選択できるマイスタープログラムは年度によって異なります。また、マイスタープログラムごとに設定されるカリキュラムおよび認定条件が異なります。詳しくはP12<マイスター認定条件>および説明会で確認してください。

15. 体験学習

体験学習は、2年次以降に実施される教育実習や保育実習の準備として、下表のような日程により実施されます。

	学 年	実習日程予定	実習園	説 明	
①体験学習Ⅰ	1年	春学期	5月	宝仙学園幼稚園	見学実習
②体験学習Ⅱ		秋学期	11月	児童養護施設等	見学実習
③体験学習Ⅲ	2年	春学期	7月	保育所	観察実習・参加実習
③体験学習Ⅳ		秋学期	12月	宝仙学園幼稚園	観察実習・参加実習

幼稚園の環境、子どもたちの遊びの様子や生活などを知るばかりでなく、体験学習は、常に子どもに関心を持ち、学内・外で自発的に観察する機会とし、幼稚園の環境や子どもたちの遊びの様子や生活を知ることが目的です。

体験学習を機に、学内・外で自発的に子どもたちの様子を観察するなど、常に子どもに関心をもつようにしましょう。

16. 学外実習

学外実習は、免許・資格取得のために学外で行う授業のうち、「幼稚園」・「保育所を含む児童福祉施設」において、実習の形態で行われるものを指します。学外実習は科目化・単位化され、免許・資格取得のための他の科目同様に評価されます。加えて、学外実習の前には事前学習の授業が設けられており、実習参加の必須条件です。さらに、各実習科目には履修条件が設けられており、その条件を満たさない場合は、実習に参加できません。実習期間等、詳しくは「実習ハンドブック」を参照してください。

また、学外実習に必要な情報を得るための施設として、1号館2階に「実習指導室」が設けられています。実習指導室は、実習指導を行うための窓口であり、実習助手が常駐し、実習に関する様々な資料を揃えています。また、実習を行う園・施設との連絡窓口の役割を担っています。実習指導室の入り口の壁面には掲示板が備え付けられており、園・施設からの情報や呼び出しのための掲示が張り出されていますので、登下校時には、必ず確認をしてください。見落とした場合、呼び出しに応じない場合、自己に不利益なことが生じても、すべて自己責任となります。

学外実習を有意義なものにする機会や施設は設けられていますが、これらをどのように活用するのかは、すべて皆さん一人ひとりにかかっています。せっかくの学外実習を無駄にしないように、普段の学修を怠らないようにしましょう。

III

諸 規 則

こども教育宝仙大学こども教育学部幼児教育学科の履修に関して必要な事項は、学則に定めるもののほかは、この規程によるものとする。

教育職員免許状（幼稚園教諭一種）及び保育士資格の取得に関しては、別に定める教職課程履修規程及び保育士養成課程履修規程によるものとする。

1 授業科目、単位数、配当年次・学期

開設する授業科目、単位数及び配当年次は、別表1のとおりとする。

2 必修科目、選択科目及び自由科目

授業科目を必修科目、選択必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次と学期に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。現在自由科目は配置されていない。

3 授業科目の区分

授業科目は、次の各号のとおり区分される。

(1) 授業の形態等から……講義科目、ゼミ・演習科目、実技・実習科目

ゼミ・演習科目、実技・実習科目は後述するように履修クラスが少人数で編成される。学生は、指定された履修クラスで授業を履修しなければならない。

(2) 授業の内容から……総合基礎領域

総合専門領域

幼児教育基礎科目群

幼児教育応用科目群

幼児教育発展科目群

幼児教育関連科目群

各領域・科目群ごとに必修科目、選択必修科目が定められている。後述する卒業の要件を参照すること。

4 学期

授業科目は学期ごとに開講され、開講される学期が指定される。本学の学期は、春学期（4月～9月中旬）と秋学期（9月中旬～3月）の2学期制とする。

5 履修登録

学生は、4月にその年度の各学期に履修する授業科目を登録する（以下「履修登録」という。）。ただし、実習関連科目は除く。また、「14 再履修及び履修条件」に規定する「音楽演習（基礎）」の再履修クラスにおいて再履修する場合に限り、秋学期に履修登録することを認める。授業科目は、履修登録することによって成績評価の対象となる。履修登録していない授業科目の授業に出席しても単位を修得することはできない。

6 単位修得

当該科目を履修し、課題提出、試験その他の総合評価により合格となった者の単位は、修得単位として認定される。

ただし、認定にあたっては、当該学期の学納金が完納されていなければならない。

7 単位修得の認定資格

別表1に規定する各授業科目の授業時数に対し3分の1を超える欠科をした場合は、その授業科目について単位修得の認定資格を失う。

8 成績評価

授業科目の成績評価は、S（100点～90点）、A（89点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）及びF（59点以下）の5段階とし、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

9 GPA

学業成績を総合的に判断する指標として、評定平均値（Grade Point Average。以下「GPA」という。）を用いる。

GPAは、授業科目の成績評価について、Sに4.0、Aに3.0、Bに2.0、Cに1.0、Fに0を評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、授業科目（「教育実習」、「教育実習事前事後指導」、「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」、「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」、「保育実習Ⅱ（保育所）」、「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」、「保育実習Ⅲ（施設）」及び「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を除く。）の総履修登録単位数で除して算出する。

10 アドバイザー

1年次から4年次まで必修を課しているゼミ科目において、担当の専任教員がゼミに所属する学生のアドバイザーとなり、履修相談などを行う。各回の授業の前後において、常時指導・助言を行う。そのための助言に要する時間としては、毎週授業2コマ分に相当する時間をオフィスアワーとして設定し、年度当初に学生便覧、研究室入口及び掲示板への掲示により通知する。その際、教員のメールアドレスを明記し、メールにより相談の予約をすることができる。

11 履修登録の単位数の上限

授業科目の履修に際しては、学期ごとに履修単位数に20単位（1年次の春学期のみ若干の例外を認める）の上限を設けて、適切な学修時間を確保する。また、直前の学期におけるGPA（Grade Point Average）のポイントが3.5以上であった場合は、次学期に24単位までの履修を認める。同様に、3.0以上であれば22単位までの履修を認める。逆に、直前の学期におけるGPAのポイントが2.0未満であった場合は、次学期の履修を18単位以下とする。

12 GPAのポイントによる履修指導

ひとつの学期におけるGPAのポイントが2.0未満であった場合は、学生に対してアドバイザーによる注意と指導を行う。2.0未満の学期が2回連続した場合又は通算3回となった場合は、学生及び保証人に対してアドバイザーによる注意と指導を行う。2.0未満の学期が3回連続した場合又は通算4回となった場合は、教授会の議を経て、本人及び保証人に学部長が在学の意思確認の上、嚴重注意する。

13 授業科目の履修クラス

講義科目以外の授業科目については、各年次の学生を履修クラスに分割して授業を行う。その履修クラスは次のとおりである。

(1) ゼミ科目は、原則として各年次の学生を6分割して履修クラスを編成する。

【該当科目】

「基礎ゼミ（学問への誘い）」、「基礎ゼミ（学問に触れる）」、

「保育実践演習Ⅰ」「保育実践演習Ⅱ」、
「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」、「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」、
「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」

(2) 音楽系の実技科目は、履修クラスを原則として10人程度以下の人数に分割して編成する。

【該当科目】

「音楽実技Ⅰ」、「音楽実技Ⅱ」、
「音楽と表現Ⅰ」、「音楽と表現Ⅱ」

(3) 外国語を含む実技・実習科目、演習科目（前述した(2)の授業科目を除く）は、履修クラスを原則として35人程度以下の人数に分割して編成する。

【該当科目】

「健康スポーツ実技」、
「英語（初級）」、「英語（中級）」、
「英語コミュニケーション（初級）」、「英語コミュニケーション（中級）」、
「実践英語（初級）」、「実践英語（上級）」、
「基礎韓国語（入門）」、「基礎韓国語（初級）」、
「韓国語コミュニケーション（入門）」、「韓国語コミュニケーション（初級）」、
「情報処理演習（基礎）」、「情報処理演習（応用）」、
「マルチメディア演習」、「プレゼンテーション演習」、
「こどもの理解と援助」、「造形と表現」、「身体と表現」、「保育内容総論」、「保育内容（環境）」、
「保育内容（人間関係）」、「保育内容（健康）」、「保育内容（表現）」、「保育内容（言葉）」、
「保育内容の指導法Ⅰ」、「保育内容の指導法Ⅱ」、
「教育実習事前事後指導」、「保育・教職実践演習（幼）」、
「保育相談支援」、「こどもの食と栄養（健康と食生活）」、「こどもの食と栄養（発達と食生活）」、
「社会的養護Ⅱ」、「障害児保育演習（理念と援助）」、「障害児保育演習（現状と課題）」、
「乳児保育Ⅱ」、「こどもの健康と安全」
「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」、「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」、
「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」、「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」

14 履修条件

次の各号の授業科目については、履修条件を設ける。

(1) 英語関係

「英語コミュニケーション（初級）」及び「英語コミュニケーション（中級）」
……「英語（初級）」及び「英語（中級）」の単位を修得していること。

(2) 韓国語関係

「韓国語コミュニケーション（入門）」
……「基礎韓国語（入門）」及び「基礎韓国語（初級）」の単位を修得していること。

(3) 教育実習関係

「こども教育宝仙大学教職課程履修規程」に定める。

(4) 保育実習関係

「こども教育宝仙大学保育士養成課程履修規程」に定める。

(5) ゼミ科目

「基礎ゼミ（学問に触れる）」

……「基礎ゼミ（学問への誘い）」と同一クラスで履修すること。

「保育実践演習Ⅱ」

……「保育実践演習Ⅰ」と同一クラスで履修すること。

「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」

……「基礎ゼミ（学問への誘い）」、「基礎ゼミ（学問に触れる）」、「保育実践演習Ⅰ」および「保育実践演習Ⅱ」の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」

……「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」の単位を修得していること。

また、「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」と同一クラスで履修すること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」

……「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」

……「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」の単位を修得していること。

また、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」と同一クラスで履修すること。

15 再履修

「16 卒業の要件」に規定する特例を除き、すべての授業科目についてすでに履修して単位を修得した授業科目を再度履修することはできない。ただし、履修登録して単位を修得できなかった場合は、次年度以降の同じ学期に再履修することを認める。なお、特例として「音楽演習（基礎）」については、履修した次の学期に再履修クラスで再履修する。

16 卒業の要件

本学に4年間在学し、次の各号の要件を満たし、合計124単位を履修して単位を修得し、かつ入学時からの累積GPAのポイントが1.5以上であることを卒業の要件とする。

GPAのポイントが1.5以上という卒業の要件を充足できず留年となる学生に対しては、次年度に授業科目の新たな履修登録を認めるとともに、すでに単位を修得して成績評価の低かった授業科目の再履修を認め、以前の履修と再履修のどちらか評価の高かった成績の単位を有効とする特例を設ける。単に修得単位数が不足して留年となる場合は、この特例による再履修の対象としない。

留年して4年以上在学した学生が春学期の終了日まで卒業の要件を満たした場合は、卒業の時期を春学期の終了日とすることができる。

(1) 総合基礎領域

必修科目11科目16単位、選択必修科目2科目2単位、計18単位

必修 「宝仙の歴史」(1)、「宝仙の教育」(1)、「仏教概論（歴史）」(2)、

「健康スポーツ理論」(1)、「健康スポーツ実技」(1)、

「英語（初級）」(1)、「英語（中級）」(1)、

「情報処理演習（基礎）」(2)、「情報処理演習（応用）」(2)、

「基礎ゼミ（学問への誘い）」(2)、「基礎ゼミ（学問に触れる）」(2)

選択必修「英語コミュニケーション（初級）」(1)・「英語コミュニケーション（中級）」(1)または「基礎韓国語（入門）」(1)・「基礎韓国語（初級）」(1)のいずれかを選択必修

(2) 総合専門領域

① 幼児教育基礎科目群

必修科目 6 科目 12 単位

必修 「教育原理」(2)、「教職・保育職概論」(2)、「保育の現場を知るⅠ」(2)、
「保育の現場を知るⅡ」(2)、「保育の現場を知るⅢ」(2)、「保育の現場を知るⅣ」(2)

② 幼児教育応用科目群

必修科目 2 科目 4 単位

必修 「保育実践演習Ⅰ」(2)、「保育実践演習Ⅱ」(2)

③ 幼児教育発展科目群

必修科目 4 科目 8 単位

必修 「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」(2)、「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」(2)、
「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」(2)、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」(2)

④ 幼児教育関連科目群

必修科目 1 科目 2 単位

必修 「保育原理（意義と本質）」(2)

(3) 選択科目

上の各号の必修科目及び選択必修科目以外に、各領域・科目群から80単位以上を修得すること。
なお、別表2の卒業必要単位数を参照すること。

17 授業科目履修の費用

授業科目の履修に際しては、実技、実習、演習、フィールドワークなどの費用が必要となる場合がある。学生は、これらの実費を負担しなければならない。

18 細則の委譲

本規程に定めのない事項については、別に定める。

附 則（規則番号第197号）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（規則番号第236号）

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成22年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第270号）

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成23年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第276号）

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成23年度入学生から適用する。

ただし、「6 単位修得」及び「14 履修条件 (5) ゼミ科目」については、平成21年度入学生より適用する。

附 則（規則番号第298号）

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（規則番号第309号）

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成25年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第320号）

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（規則番号第336号）

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成27年度入学生から適用する。ただし、「在宅保育論」については、平成24年度入学生より履修できるものとする。

附 則（規則番号第366号）

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成28年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第387号）

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成29年度在校生から適用する。

附 則（規則番号第405号）

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成30年度入学生から適用する。但し、14 履修条件（2）韓国語関係については、平成30年度在学学生より適用する。

附 則（規則番号第420号）

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成31年度入学生から適用する。ただし、「こども食育実践論」及び「身体遊び実践論」については、平成30年度入学生から履修できるものとする。

附 則（規則番号第 号）

- 1 この規程は、令和2〔2020〕年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、令和2〔2020〕年度入学生から適用する。ただし、「地域文化体験」及び「国外保育体験」については、平成31〔2019〕年度入学生より履修できるものとする。

別表1 開設する授業科目、単位数、配当年次・学期

領域区分	科目名	必修	選択	配当年次学期	備考
		(単位数)	(単位数)		
総合基礎領域	宝仙の歴史	1		1年春	
	宝仙の教育	1		1年秋	
	仏教概論(歴史)	2		2年春	
	仏教概論(思想)		2	2年秋	
	人間形成論		2	1～4秋	
	現代の倫理と宗教		2	1～4春	
	異文化理解		2	1～4秋	
	日本国憲法		2	1～4秋	
	職業と社会		2	1～4秋	
	現代女性論		2	1～4春	
	こどもと親のストレスマネジメント		2	1～4春	
	暮らしの中のコンピュータ		2	1～4秋	
	生と死を考える		2	1～4春	
	食育と現代社会		2	1～4秋	
	地球と環境		2	1～4秋	
	健康スポーツ理論	1		1年秋	
	健康スポーツ実技	1		1年春	
	英語(初級)	1		1年春	
	英語(中級)	1		1年秋	
	英語コミュニケーション(初級)	1		2年春	英語コミュニケーション(初級)・(中級)2単位か基礎韓国語(入門)・(初級)2単位を選択必修
	英語コミュニケーション(中級)	1		2年秋	英語コミュニケーション(初級)・(中級)2単位か基礎韓国語(入門)・(初級)2単位を選択必修
	実践英語(初級)		1	3・4年春	
	実践英語(上級)		1	3・4年秋	
基礎韓国語(入門)	1		2年春	英語コミュニケーション(初級)・(中級)2単位か基礎韓国語(入門)・(初級)2単位を選択必修	
基礎韓国語(初級)	1		2年秋	英語コミュニケーション(初級)・(中級)2単位か基礎韓国語(入門)・(初級)2単位を選択必修	
韓国語コミュニケーション(入門)		1	3・4春		

領域区分	科目名	必修	選択	配当年次学期	備考
		(単位数)	(単位数)		
総合基礎領域	韓国語コミュニケーション(初級)		1	3・4秋	
	情報処理演習(基礎)	2		1年春	
	情報処理演習(応用)	2		1年秋	
	マルチメディア演習		2	2・3春	
	プレゼンテーション演習		2	3・4春	
	基礎ゼミ(学問への誘い)	2		1年春	
	基礎ゼミ(学問に触れる)	2		1年秋	
	こども食育実践論		2	4年春秋	
	身体遊び実践論		2	4年春秋	
	音楽実技Ⅰ		1	1年秋	
	音楽実技Ⅱ		1	2年春	
	保育実践論Ⅰ		2	3年春	編入学生のみ履修可
	保育実践論Ⅱ		2	3年秋	編入学生のみ履修可
	保育実践論Ⅲ		2	4年春	編入学生のみ履修可
	保育実践論Ⅳ		2	4年秋	編入学生のみ履修可
	総合専門領域 幼児教育基礎科目群	教育原理	2		1年春
教育制度論			2	1年秋	
教職・保育職概論		2		2年春	
保育カリキュラム論			2	2年秋	
発達心理学			2	1年春	
こどもの理解と援助			1	2年秋	
保育の現場を知るⅠ		2		1年春	
保育の現場を知るⅡ		2		1年秋	
保育の現場を知るⅢ		2		2年春	
保育の現場を知るⅣ		2		2年秋	
特別支援教育概論			2	3年春	
総合専門領域 幼児教育応用科目群	ことばとコミュニケーション		2	1年春	
	音楽と表現Ⅰ		1	1年春	
	音楽と表現Ⅱ		1	2年秋	
	造形と表現		1	2年春	
	身体と表現		1	1年春	
	保育内容総論		2	1年秋	
	保育内容(環境)		2	3年春	
	保育内容(人間関係)		2	3年春	
	保育内容(健康)		2	2年秋	
	保育内容(表現)		2	2年秋	

領域区分	科目名	必修	選択	配当年度 次学期	備考
		(単位数)	(単位数)		
総合専門領域 幼児教育応用科目群	保育内容(言葉)		2	1年秋	
	保育内容の指導法Ⅰ		2	3年春	
	保育内容の指導法Ⅱ		2	3年秋	
	保育方法論		2	3年春	
	こども理解と教育相談		2	3年春	
	こども英語指導法		2	3・4秋	
	保育実践演習Ⅰ	2		2年春	
保育実践演習Ⅱ	2		2年秋		
総合専門領域 幼児教育発展科目群	教育実習		4	4年春	
	教育実習事前事後指導		1	4年春	
	保育・教職実践演習(幼)		2	4年秋	
	専門研究ゼミⅠ(講読と発表)	2		3年春	
	専門研究ゼミⅠ(調査と発表)	2		3年秋	
	専門研究ゼミⅡ (卒業研究の基礎)	2		4年春	
	専門研究ゼミⅡ (卒業研究の完成)	2		4年秋	
総合専門領域 幼児教育関連科目群	保育原理(意義と本質)	2		1年春	
	保育原理(保育ニーズの多様化)		2	1年秋	
	社会福祉		2	1年春	
	こども家庭福祉		2	1年秋	
	保育相談支援		1	2年秋	
	こどもの保健		2	2年春	
	こどもの健康と安全		1	2年春	
	こどもの食と栄養 (健康と食生活)		1	1年春	
	こどもの食と栄養 (発達と食生活)		1	1年秋	
	社会的養護Ⅰ		2	1年秋	
	社会的養護Ⅱ		1	2年春	
	家庭支援論		2	2年秋	
	乳児保育Ⅰ		2	2年春	
	乳児保育Ⅱ		1	2年秋	
	障害児保育演習(理念と援助)		1	2年春	
	障害児保育演習(現状と課題)		1	2年秋	
	子育て支援論		2	2年春	
	子育て支援カウンセリング		2	3・4秋	
子育て支援フィールドワーク (基礎)		2	3・4春		

領域区分	科目名	必修	選択	配当年次学期	備考
		(単位数)	(単位数)		
総合専門領域 幼児教育関連科目群	子育て支援フィールドワーク(応用)		2	3・4秋	
	児童文化		2	4年秋	
	絵本と児童文学		2	3・4春	
	リトミック		2	3・4秋	
	障害児の発達と運動遊び		2	3・4春	
	地域社会とこども家庭福祉		2	3・4春	
	在宅保育論		2	4年秋	
	歌遊び		2	3・4春	
	音楽遊び		2	3年秋	
	保育実習Ⅰ(保育所)		2	3年春	
	保育実習Ⅰ(施設)		2	3年春 または秋	
	保育実習Ⅰ(保育所) 事前事後指導		1	3年春	
	保育実習Ⅰ(施設) 事前事後指導		1	3年春 または秋	
	保育実習Ⅱ(保育所)		2	3年秋	「保育実習Ⅱ(保育所)」と「保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導」、または「保育実習Ⅲ(施設)」と「保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導」のいずれか選択必修し、3単位を修得すること
	保育実習Ⅱ(保育所) 事前事後指導		1	3年秋	
保育実習Ⅲ(施設)		2	3年秋		
保育実習Ⅲ(施設) 事前事後指導		1	3年秋		

別表2 卒業必要単位数

	総合基礎領域	総合専門領域			
		幼児教育基礎科目群	幼児教育応用科目群	幼児教育発展科目群	幼児教育関連科目群
必修科目	11科目 16単位	6科目 12単位	2科目 4単位	4科目 8単位	1科目 2単位
選択必修科目	2科目 2単位				
選択科目	80単位以上				
合計	124単位				

- 1 教育職員免許状（幼稚園教諭一種）取得に関して必要な事項は、学則に定めるもののほかは、この規程によるものとする。
- 2 教育職員免許状（幼稚園教諭一種）を取得するためには、次の表のとおり授業科目を履修し、単位を修得した上で、本学こども教育学部幼児教育学科を卒業しなければならない。
- 3 「教育実習」を履修するためには、前学期までのGPAの累積値が1.5以上なければならない。
 - 2 「教育実習」を履修するためには、「教育原理」、「教職・保育職概論」、「発達心理学」および「保育カリキュラム論」の単位を修得していること。なお且つ当該学期の「教育実習事前事後指導」を履修していること。
- 4 次の表に定める総合専門領域幼児教育発展科目群の授業科目を履修する場合及び教育職員免許状（幼稚園教諭一種）申請に際しては、別に定める費用を納付しなければならない。

附 則（規則番号第198号）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（規則番号第235号）

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成22年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第277号）

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成21年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第308号）

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成25年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第367号）

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成28年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第421号）

- 1 この規程は、平成31〔2019〕年4月1日から施行する。
- 2 この改正は、平成31〔2019〕年度入学生から適用する。

別表 1

(数字は単位数)

区 分	科 目 名	必修科目	選択科目	備 考
総合基礎領域	日本国憲法	2		
	健康スポーツ理論	1		
	健康スポーツ実技	1		
	英語(初級)	1		
	英語(中級)	1		
	英語コミュニケーション(初級)		1	
	英語コミュニケーション(中級)		1	
	実践英語(初級)		1	
	実践英語(上級)		1	
	基礎韓国語(入門)		1	
	基礎韓国語(初級)		1	
	韓国語コミュニケーション(入門)		1	
	韓国語コミュニケーション(初級)		1	
	情報処理演習(基礎)	2		
	情報処理演習(応用)		2	
	マルチメディア演習		2	
プレゼンテーション演習		2		
総合専門領域 幼児教育基礎科目群	教育原理	2		
	教育制度論	2		
	教職・保育職概論	2		
	保育カリキュラム論	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育概論	2		
	保育の現場を知るⅠ	2		
	保育の現場を知るⅡ	2		
	保育の現場を知るⅢ	2		
保育の現場を知るⅣ	2			
総合専門領域 幼児教育応用科目群	身体と表現	1		
	音楽と表現Ⅰ	1		
	音楽と表現Ⅱ	1		
	造形と表現	1		
	ことばとコミュニケーション	2		
	保育内容総論	2		
	保育内容の指導法Ⅰ	2		
	保育内容の指導法Ⅱ	2		
	保育内容(健康)	2		
	保育内容(人間関係)	2		
	保育内容(環境)	2		

区 分	科 目 名	必修科目	選択科目	備 考
総合専門領域 幼児教育応用科目群	保育内容(言葉)	2		
	保育内容(表現)	2		
	保育方法論	2		
	こども理解と教育相談	2		
総合専門領域 幼児教育発展科目群	教育実習	4		
	教育実習事前事後指導	1		
	保育・教職実践演習(幼)	2		

- 1 保育士資格取得に関して必要な事項は、学則に定めるもののほかは、この規程によるものとする。
- 2 保育士資格を取得するためには、必要なオリエンテーションに出席し、次の表のとおり授業科目を履修し、単位を修得した上で、本学こども教育学部幼児教育学科を卒業しなければならない。
なお、次の表に定める授業科目は、厚生労働省告示第216号に規定する教養科目、必修科目及び選択必修科目として算定される。
- 3 「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」、「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」、「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」および「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修するためには、前学期までのGPAの累積値が1.5以上でなければならない。
- 2 「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修するためには、「保育原理（意義と本質）」、「発達心理学」、「保育の現場を知るⅢ」および「保育内容総論」のうち3科目以上の単位を修得していること。
- 3 「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修するためには、当該学期の「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修していること。
- 4 「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修するためには、「保育原理（意義と本質）」、「発達心理学」、「こども家庭福祉」および「社会的養護Ⅰ」のうち3科目以上の単位を修得していること。
- 5 「保育実習Ⅰ（施設）」を履修するためには、当該学期の「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修していること。
- 6 「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修するためには、「保育実習Ⅰ（保育所）」および「保育実習Ⅰ（施設）」を修得し、「家庭支援論」、「保育内容（環境）」、「保育内容（人間関係）」、「保育内容（健康）」、「保育内容（表現）」および「保育内容（言葉）」のうち5科目以上の単位を修得していること。
- 7 「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修するためには、当該学期の「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修していること。
- 8 「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修するためには、「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「社会的養護Ⅰ」、「社会的養護Ⅱ」および「障害児保育演習（理念と援助）」の単位を修得していること。
- 9 「保育実習Ⅲ（施設）」を履修するためには、当該学期の「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修していること。
- 4 次の表に定める保育実習関係の授業科目を履修する場合および保育士資格申請に際しては、別に定める費用を納付しなければならない。

附 則（規則番号第199号）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（規則番号第271号）

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成23年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第278号）

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成22年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第305号）

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成24年度入学生から適用する。

附 則（規則番号第422号）

1 この規程は、平成31〔2019〕年4月1日から施行する。

2 この改正は、平成31〔2019〕年度入学生から適用する。

表1

告示による 教科目・系列		授業科目名	授業 形態	修業時間 (単位:時間)	保育士 必修科目 単位数	保育士 選択科目 単位数	備考
教養科目	(外国語、体 育以外の科 目)	宝仙の歴史	講義	15		1	※1
		宝仙の教育	講義	15		1	※1
		仏教概論(歴史)	講義	30		2	※1
		仏教概論(思想)	講義	30		2	※1
		人間形成論	講義	30		2	※1
		異文化理解	講義	30		2	※1
		日本国憲法	講義	30		2	※1
		情報処理演習(基礎)	演習	30		2	※1
	(体育)	健康スポーツ理論	講義	15	1		
		健康スポーツ実技	実技	30	1		
	(外国語)	英語(初級)	演習	30	1		
		英語(中級)	演習	30	1		
	(告示別表第1による教科目 (保育の本質・目的に関する科目))	保育原理	保育原理(意義と本質)	講義	30	2	
保育原理 (保育ニーズの多様化)			講義	30	2		
教育原理		教育原理	講義	30	2		
子ども家庭 福祉		こども家庭福祉	講義	30	2		
社会福祉		社会福祉	講義	30	2		
子ども家庭 支援論		子育て支援論	講義	30	2		
社会的養護 I		社会的養護I	講義	30	2		
保育者論	教職・保育職概論	講義	30	2			
(告示別表第1による教科目 (保育の対象の理解に関する科目))	保育の心理 学	発達心理学	講義	30	2		
	子ども家庭 の心理学	家庭支援論	講義	30	2		
	子どもの理 解と援助	こどもの理解と援助	演習	30	1		
	子どもの保 健	こどもの保健	講義	30	2		
	子どもの食 と栄養	こどもの食と栄養 (健康と食生活)	演習	30	1		
こどもの食と栄養 (発達と食生活)		演習	30	1			

告示による 教科目・系列		授業科目名	授業 形態	修業時間 (単位：時間)	保育士 必修科目 単位数	保育士 選択科目 単位数	備考
告示別表第1による 教科目 (保育の内容・方法に関する科目)	保育の計画 と評価	保育カリキュラム論	講義	30	2		
	保育内容総 論	保育内容総論	演習	30	2		
	保育内容演 習	保育内容(環境)	演習	30	2		
		保育内容(人間関係)	演習	30	2		
		保育内容(健康)	演習	30	2		
		保育内容(表現)	演習	30	2		
		保育内容(言葉)	演習	30	2		
	保育内容の 理解と方法	音楽と表現Ⅰ	演習	30	1		
		音楽と表現Ⅱ	演習	30	1		
		造形と表現	演習	30	1		
		身体と表現	演習	30	1		
	乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰ	講義	30	2		
	乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱ	演習	30	1		
	子どもの健 康と安全	こどもの健康と安全	演習	30	1		
	障害児保育	障害児保育演習 (理念と援助)	演習	30	1		
		障害児保育演習 (現状と課題)	演習	30	1		
社会的養護 Ⅱ	社会的養護Ⅱ	演習	30	1			
子育て支援	保育相談支援	演習	30	1			
告示別表第1による 教科目(保育実習)	保育実習Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所)	実習	90	2		
		保育実習Ⅰ(施設)	実習	90	2		
	保育実習指 導Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所) 事前事後指導	演習	30	1		
		保育実習Ⅰ(施設) 事前事後指導	演習	30	1		
告示別表第1による 教科目(総合演習)	保育実践演 習	保育実践演習Ⅰ	演習	30	2		

告示による 教科目・系列	授業科目名	授業 形態	修業時間 (単位:時間)	保育士 必修科目 単位数	保育士 選択科目 単位数	備考	
告示別表第2による教科目	保育の本質・目的に関する科目	教育制度論	講義	30		2	※2
		地域社会とこども家庭福祉	講義	30		2	※2
		保育実践演習Ⅱ	演習	30		2	※2
	保育の対象の理解に関する科目	こども理解と教育相談	講義	30		2	※2
		子育て支援カウンセリング	講義	30		2	※2
		保育の現場を知るⅡ	講義	30		2	※2
		保育の現場を知るⅢ	講義	30		2	※2
	保育の内容・方法に関する科目	保育方法論	講義	30		2	※2
		子育て支援フィールドワーク(基礎)	講義	30		2	※2
		子育て支援フィールドワーク(応用)	講義	30		2	※2
		児童文化	講義	30		2	※2
		絵本と児童文学	講義	30		2	※2
		リトミック	講義	30		2	※2
		障害児の発達と運動遊び	講義	30		2	※2
		歌遊び	講義	30		2	※2
		音楽遊び	講義	30		2	※2
		在宅保育論	講義	30		2	※2
		保育内容の指導法Ⅰ	演習	30		2	※2
		保育内容の指導法Ⅱ	演習	30		2	※2
		保育実習 (保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ)	保育実習Ⅱ(保育所)	実習	90		2
保育実習Ⅲ(施設)	実習		90		2		
保育実習 (保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲ)	保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導	演習	30		1	「保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導」のいずれか選択必修し、3単位を修得すること	
	保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	演習	30		1		

※1：※1の中から6単位を選択必修すること。

※2：※2の中から15単位を選択必修すること。

2019 年度～入学生対象

幼稚園教諭一種免許状取得に必要な基礎資格及び最低修得単位数一覧

□ 幼稚園教諭一種免許状取得には、教育職員免許法等関連法規に基づき、下記 1・2 のそれぞれの要件を全て満たすことが必要です。

1. 基礎資格：学士の学位を有すること（所定の単位を修得し、大学を卒業すること）
2. 最低必要単位数
 - ①領域及び保育内容の指導法に関する科目：16単位（16単位以上）
 - ②教育の基礎的理解に関する科目：12単位（10単位以上）
 - ③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目：4単位（4単位以上）
 - ④教育実践に関する科目：7単位（7単位以上）
 - ⑤大学が独自に設定する科目：14単位（14単位以上）
 - ⑥66条の6に定める科目：8単位（8単位以上）※1

※（ ）内は、教育職員免許法第5条別表1に基づく単位数

※1：教育職員免許法施行規則第66条6に定める科目

①領域及び保育内容の指導法に関する科目：16単位（16単位以上）

免許法施行規則に定める科目区分等		最低単位数	左記に対応する開設授業科目		
			授業科目	単位数	
				必	選
領域に関する専門的事項	健康	16	保育内容(健康)	2	
	人間関係		保育内容(人間関係)	2	
	環境		保育内容(環境)	2	
	言葉		保育内容(言葉)	2	
	表現		保育内容(表現)	2	
保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			保育内容総論	2	
			保育内容の指導法Ⅰ	2	
			保育内容の指導法Ⅱ	2	
計		16		16	-

②教育の基礎的理解に関する科目：12単位（10単位以上）

各科目に含める必要事項		最低単位数	左記に対応する開設授業科目		
			授業科目	単位数	
				必	選
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育原理	2	
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職・保育職概論	2	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育制度論	2	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			発達心理学	2	
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育概論	2	
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			保育カリキュラム論	2	
計		10		12	-

③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目：4単位（4単位以上）

免許法施行規則に定める科目区分	最低 単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	
			必	選
教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	保育方法論	2	
幼児理解の理論及び方法		こども理解と教育相談	2	
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
計	4		4	-

④教育実践に関する科目：7単位（7単位以上）

各科目に含める必要事項	最低 単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	
			必	選
教育実習	5	教育実習事前事後指導	1	
教職実践演習	2	教育実習	4	
		保育・教職実践演習（幼）	2	
計	7		7	-

⑤大学が独自に設定する科目：14単位（14単位以上）

免許法施行規則に定める科目区分等	最低 単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	
			必	選
大学が独自に設定する科目	14	身体と表現	1	
		音楽と表現Ⅰ	1	
		音楽と表現Ⅱ	1	
		造形と表現	1	
		ことばとコミュニケーション	2	
		保育の現場を知るⅠ	2	
		保育の現場を知るⅡ	2	
		保育の現場を知るⅢ	2	
保育の現場を知るⅣ	2			
計	14		14	-

⑥66条の6に定める科目：8単位（8単位以上）

免許法施行規則に定める科目区分等	最低 単位数	左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	
			必	選
日本国憲法	2	日本国憲法	2	
体育	2	健康スポーツ理論	1	
		健康スポーツ実技	1	
外国語コミュニケーション	2	英語（初級）	1	
		英語（中級）	1	
		英語コミュニケーション（初級）		1
		英語コミュニケーション（中級）		1
		実践英語（初級）		1
		実践英語（上級）		1
		基礎韓国語（入門）		1
		基礎韓国語（初級）		1
		韓国語コミュニケーション（入門）		1
		韓国語コミュニケーション（初級）		1
情報機器の操作	2	情報処理演習（基礎）	2	
		情報処理演習（応用）		2
		マルチメディア演習		2
		プレゼンテーション演習		2
計	8		8	14

2019年度～入学生対象

保育士資格取得に必要な基礎資格及び最低修得単位数一覧

□ 保育士資格取得には、児童福祉法施行令（第5条第1項）及び児童福祉法施行規則（第6条の2第1項第3号）に従い下記1・2のそれぞれの要件を全て満たすことが必要です。

1. 基礎資格：学士の学位を有すること(所定の単位を修得し、大学を卒業すること)
2. 最低必要単位数
 - ①必修科目：別表1に定める全ての科目の単位を修得する。
 - ②選択必修科目：別表2に定める科目は「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅱ事前事後指導」または「保育実習Ⅲ」及び「保育実習Ⅲ事前事後指導」を必ず含めて18単位以上を修得する。
 - ③教養科目：別表3に定める科目は、必修科目以外に外国語、体育以外の科目の中から6単位以上選択必修。

別表1

児童福祉法施行規則に定められた科目			左記に対応する開設授業科目		
系 列	教 科 目	最低 単位数	授 業 科 目	単位数	
				必	選
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理(意義と本質)	2	
			保育原理(保育ニーズの多様化)	2	
	教育原理	2	教育原理	2	
	子ども家庭福祉	2	こども家庭福祉	2	
	社会福祉	2	社会福祉	2	
	子ども家庭支援論	2	子育て支援論	2	
解に関する科目	社会的養護Ⅰ	2	社会的養護Ⅰ	2	
	保育者論	2	教職・保育職概論	2	
	保育の心理学	2	発達心理学	2	
	子ども家庭支援の心理学	2	家庭支援論	2	
	子どもの理解と援助	1	こどもの理解と援助	1	
	子どもの保健	2	こどもの保健	2	
保育の内容・方法に関する科目	子どもの食と栄養	2	こどもの食と栄養(健康と食生活)	1	
			こどもの食と栄養(発達と食生活)	1	
	保育の計画と評価	2	保育カリキュラム論	2	
	保育内容総論	1	保育内容総論	2	
	保育内容演習	5	保育内容(環境)	2	
			保育内容(人間関係)	2	
			保育内容(健康)	2	
			保育内容(表現)	2	
			保育内容(言葉)	2	
	保育内容の理解と方法	4	音楽と表現Ⅰ	1	
			音楽と表現Ⅱ	1	
			造形と表現	1	
			身体と表現	1	
	乳児保育Ⅰ	2	乳児保育Ⅰ	2	
	乳児保育Ⅱ	1	乳児保育Ⅱ	1	
子どもの健康と安全	1	こどもの健康と安全	1		
障害児保育	2	障害児保育演習(理念と援助)	1		
		障害児保育演習(現状と課題)	1		
社会的養護Ⅱ	1	社会的養護Ⅱ	1		
子育て支援	1	保育相談支援	1		
実 保 習 育	保育実習Ⅰ	4	保育実習Ⅰ(保育所)	2	
			保育実習Ⅰ(施設)	2	
	保育実習指導Ⅰ	2	保育実習Ⅰ(保育所)事前事後指導	1	
			保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導	1	

児童福祉法施行規則に定められた科目			左記に対応する開設授業科目		
系 列	教 科 目	最低 単位数	授 業 科 目	単位数	
				必	選
演 習 合 計	保育実践演習	2	保育実践演習 I	2	
合 計		51	59単位 (≥51単位)		0

別表 2

児童福祉法施行規則に定められた科目			左記に対応する開設授業科目					
系 列	教 科 目	最低 単位数	授 業 科 目	単位数				
				必	選			
保育の本質・目的に関する科目			教育制度論		2			
			地域社会とこども家庭福祉		2			
			保育実践演習 II		2			
保育の対象の理解に関する科目			こども理解と教育相談		2			
			子育て支援カウンセリング		2			
			保育の現場を知る II		2			
			保育の現場を知る III		2			
保育の内容・方法に関する科目		15単位以上	保育方法論		2			
			子育て支援フィールドワーク (基礎)		2			
			子育て支援フィールドワーク (応用)		2			
			児童文化		2			
			絵本と児童文学		2			
			リトミック		2			
			障害児の発達と運動遊び		2			
			歌遊び		2			
			音楽遊び		2			
			在宅保育論		2			
			保育内容の指導法 I		2			
			保育内容の指導法 II		2			
			保 育 実 習	保育実習 II 又は 保育実習 III	2	保育実習 II (保育所)		2
						保育実習 III (施設)		2
保 育 実 習	保育実習指導 II 又は 保育実習指導 III	1	保育実習 II (保育所) 事前事後指導		1			
			保育実習 III (施設) 事前事後指導		1			
合 計		18単位以上	40単位 (≥18単位)		0 44			

※「保育実習 II (保育所)」及び「保育実習 II (保育所) 事前事後指導」、または「保育実習 III (施設)」及び「保育実習 III (施設) 事前事後指導」を必ず含めて18単位以上を修得する。

別表 3

児童福祉法施行規則に定められた科目			左記に対応する開設授業科目		
系 列	教 科 目	最低 単位数	授 業 科 目	単位数	
				必	選
教 養 科 目	外国語、体育以外の科目	6単位以上	宝仙の歴史		1
			宝仙の教育		1
			仏教概論 (歴史)		2
			仏教概論 (思想)		2
			人間形成論		2
			異文化理解		2
			日本国憲法		2
			情報処理演習 (基礎)		2
	外国語	2単位以上	英語 (初級)		1
			英語 (中級)		1
体 育	1	健康スポーツ理論		1	
		健康スポーツ実技		1	
合 計		8単位以上	4 14		

※外国語、体育以外の教科目から6単位以上選択必修。

単位修得チェック票（卒業：2020年度入学生用）

区分	No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
	00001	宝仙の歴史	1年	春	1		
	00017	健康スポーツ実技	1年	春	1		
	00018	英語（初級）	1年	春	1		
	00028	情報処理演習（基礎）	1年	春	2		
	00032	基礎ゼミ（学問への誘い）	1年	春	2		
	00034	教育原理	1年	春	2		
	00085	保育原理（意義と本質）	1年	春	2		
	00167	保育の現場を知るⅠ	1年	春	2		
	00002	宝仙の教育	1年	秋	1		
	00016	健康スポーツ理論	1年	秋	1		
	00019	英語（中級）	1年	秋	1		
	00029	情報処理演習（応用）	1年	秋	2		
	00033	基礎ゼミ（学問に触れる）	1年	秋	2		
	00168	保育の現場を知るⅡ	1年	秋	2		
	00003	仏教概論（歴史）	2年	春	2		
	00036	教職・保育職概論	2年	春	2		
	00156	保育実践演習Ⅰ	2年	春	2		
	00169	保育の現場を知るⅢ	2年	春	2		
	00157	保育実践演習Ⅱ	2年	秋	2		
	00170	保育の現場を知るⅣ	2年	秋	2		
	00081	専門研究ゼミⅠ（講読と発表）	3年	春	2	あり	
	00082	専門研究ゼミⅠ（調査と発表）	3年	秋	2	あり	
	00083	専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）	4年	春	2	あり	
	00084	専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）	4年	秋	2	あり	
卒業必修科目単位数計：					42		
	00024	基礎韓国語（入門）	2年	春	1		
	00025	基礎韓国語（初級）	2年	秋	1		
	00020	英語コミュニケーション（初級）	2年	春	1	あり	
	00021	英語コミュニケーション（中級）	2年	秋	1	あり	
卒業選択必修科目単位数計：					2	△※1	
	00006	現代の倫理と宗教	1～4年	春	2		
	00010	現代女性論	1～4年	春	2		
	00011	こどもと親のストレスマネジメント	1～4年	春	2		
	00013	生と死を考える	1～4年	春	2		
	00007	異文化理解	1～4年	秋	2		

区分	No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
	00008	日本国憲法	1～4年	秋	2		
	00009	職業と社会	1～4年	秋	2		
	00012	暮らしの中のコンピュータ	1～4年	秋	2		
	00014	食育と現代社会	1～4年	秋	2		
	00015	地球と環境	1～4年	秋	2		
	00005	人間形成論	1～4年	秋	2		
	00038	発達心理学	1年	春	2		
	00194	ことばとコミュニケーション	1年	春	2		
	00195	音楽と表現Ⅰ	1年	春	1		
	00198	身体と表現	1年	春	1		
	00087	社会福祉	1年	春	2		
	00161	こどもの食と栄養(健康と食生活)	1年	春	1		
	00204	保育内容(言葉)	1年	秋	2		
	00035	教育制度論	1年	秋	2		
	00185	音楽実技Ⅰ	1年	秋	1		
	00199	保育内容総論	1年	秋	2		
	00086	保育原理(保育ニーズの多様化)	1年	秋	2		
	00163	社会的養護Ⅰ	1年	秋	2		
	00207	こども家庭福祉	1年	秋	2		
	00162	こどもの食と栄養(発達と食生活)	1年	秋	1		
	00030	マルチメディア演習	2～3年	春	2		
	00186	音楽実技Ⅱ	2年	春	1		
	00197	造形と表現	2年	春	1		
	00213	乳児保育Ⅰ	2年	春	2		
	00215	子育て支援論	2年	春	2		
	00122	障害児保育演習(理念と援助)	2年	春	1		
	00208	こどもの保健	2年	春	2		
	00164	社会的養護Ⅱ	2年	春	1		
	00209	こどもの健康と安全	2年	春	1		
	00218	地域文化体験	2年	春	2		
	00004	仏教概論(思想)	2年	秋	2		
	00191	保育カリキュラム論	2年	秋	2		
	00196	音楽と表現Ⅱ	2年	秋	1		
	00202	保育内容(健康)	2年	秋	2		
	00203	保育内容(表現)	2年	秋	2		
	00214	乳児保育Ⅱ	2年	秋	1		

区分	No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
	00121	保育相談支援	2年	秋	1		
	00123	障害児保育演習(現状と課題)	2年	秋	1		
	00192	こどもの理解と援助	2年	秋	1		
	00211	家庭支援論	2年	秋	2		
	00216	歌遊び	3-4年	春	2		
	00111	障害児の発達と運動遊び	3-4年	春	2		
	00022	実践英語(初級)	3-4年	春	1		
	00026	韓国語コミュニケーション(入門)	3-4年	春	1	あり	
	00031	プレゼンテーション演習	3-4年	春	2		
	00105	子育て支援フィールドワーク(基礎)	3-4年	春	2		
	00108	絵本と児童文学	3-4年	春	2		
	00112	地域社会とこども家庭福祉	3-4年	春	2		
	00023	実践英語(上級)	3-4年	秋	1		
	00027	韓国語コミュニケーション(初級)	3-4年	秋	1	あり	
	00063	こども英語指導法	3-4年	秋	2		
	00104	子育て支援カウンセリング	3-4年	秋	2		
	00106	子育て支援フィールドワーク(応用)	3-4年	秋	2		
	00109	リトミック	3-4年	秋	2		
	00219	国外保育体験	3-4年	秋	2		
	00201	保育内容(人間関係)	3年	春	2		
	00205	保育内容の指導法Ⅰ	3年	春	2		
	00200	保育内容(環境)	3年	春	2		
	00061	保育方法論	3年	春	2		
	00062	こども理解と教育相談	3年	春	2		
	00119	保育実習Ⅰ(保育所)	3年	春	2	あり	
	00154	保育実習Ⅰ(保育所)事前事後指導	3年	春	1	あり	
	00114	保育実習Ⅰ(施設)	3年	春または秋	2	あり	
	00155	保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導	3年	春または秋	1	あり	
	00193	特別支援教育概論	3年	春	2		
	00206	保育内容の指導法Ⅱ	3年	秋	2		
	00217	音楽遊び	3年	秋	2		
	00116	保育実習Ⅱ(保育所)	3年	秋	2	あり	
	00126	保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導	3年	秋	1	あり	
	00117	保育実習Ⅲ(施設)	3年	秋	2	あり	
	00127	保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	3年	秋	1	あり	
	00172	教育実習	4年	春	4	あり	

区分	No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
	00173	教育実習事前事後指導	4年	春	1	あり	
	00107	児童文化	4年	秋	2		
	00118	保育・教職実践演習(幼)	4年	秋	2		
	00171	在宅保育論	4年	秋	2		
	00183	こども食育実践論	4年	春・秋	2		
	00184	身体遊び実践論	4年	春・秋	2		
卒業選択科目単位数計:					※2		

卒業カリキュラム	必修	選択必修	選択	当該学期 GPA	累積GPA
必要要件単位数・GPA値	42単位	2単位	80単位	-	1.5以上
年度春					
年度秋					
合計	単位	単位	単位		
年度春					
年度秋					
合計	単位	単位	単位		
年度春					
年度秋					
合計	単位	単位	単位		
年度春					
年度秋					
合計	単位	単位	単位		

◎ このチェック表は履修登録時の補助的役割として使うこと。

◎ 履修条件など、各科目の詳細や最新の情報については、「授業ハンドブック」及び「シラバス」を参照のこと。

△※1：英語コミュニケーション又は基礎韓国語のいずれか2単位選択必修

※2：卒業選択科目から、80単位修得すること。

単位修得チェック票（幼稚園教諭：2020年度入学生用）

No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
00008	日本国憲法	1～4年	秋	2		
00017	健康スポーツ実技	1年	春	1		
00018	英語（初級）	1年	春	1		
00028	情報処理演習（基礎）	1年	春	2		
00034	教育原理	1年	春	2		
00038	発達心理学	1年	春	2		
00194	ことばとコミュニケーション	1年	春	2		
00195	音楽と表現Ⅰ	1年	春	1		
00198	身体と表現	1年	春	1		
00167	保育の現場を知るⅠ	1年	春	2		
00204	保育内容（言葉）	1年	秋	2		
00016	健康スポーツ理論	1年	秋	1		
00019	英語（中級）	1年	秋	1		
00035	教育制度論	1年	秋	2		
00199	保育内容総論	1年	秋	2		
00168	保育の現場を知るⅡ	1年	秋	2		
00036	教職・保育職概論	2年	春	2		
00197	造形と表現	2年	春	1		
00169	保育の現場を知るⅢ	2年	春	2		
00191	保育カリキュラム論	2年	秋	2		
00196	音楽と表現Ⅱ	2年	秋	1		
00202	保育内容（健康）	2年	秋	2		
00203	保育内容（表現）	2年	秋	2		
00170	保育の現場を知るⅣ	2年	秋	2		
00201	保育内容（人間関係）	3年	春	2		
00205	保育内容の指導法Ⅰ	3年	春	2		
00200	保育内容（環境）	3年	春	2		
00061	保育方法論	3年	春	2		
00062	こども理解と教育相談	3年	春	2		
00193	特別支援教育概論	3年	春	2		
00206	保育内容の指導法Ⅱ	3年	秋	2		
00172	教育実習	4年	春	4	あり	
00173	教育実習事前事後指導	4年	春	1	あり	
00118	保育・教職実践演習（幼）	4年	秋	2		
幼稚園教諭免許必修科目計：				61		

卒業カリキュラム	必修	当該学期 GPA	累積GPA
必要要件単位数・GPA値	61単位	-	1.5以上
年度春			
年度秋			
合計	単位		
年度春			
年度秋			
合計	単位		
年度春			
年度秋			
合計	単位		
年度春			
年度秋			
合計	単位		
総合計	単位		

- ◎ このチェック票は履修登録時の補助的役割として使うこと。
- ◎ 履修条件など、各科目の詳細や最新の情報については、「授業ハンドブック」及び「シラバス」を参照のこと。

単位修得チェック票（保育士資格：2020年度入学生用）

区分	No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
	00017	健康スポーツ実技	1年	春	1		
	00018	英語（初級）	1年	春	1		
	00034	教育原理	1年	春	2		
	00038	発達心理学	1年	春	2		
	00195	音楽と表現 I	1年	春	1		
	00198	身体と表現	1年	春	1		
	00085	保育原理（意義と本質）	1年	春	2		
	00087	社会福祉	1年	春	2		
	00161	こどもの食と栄養（健康と食生活）	1年	春	1		
	00204	保育内容（言葉）	1年	秋	2		
	00016	健康スポーツ理論	1年	秋	1		
	00019	英語（中級）	1年	秋	1		
	00199	保育内容総論	1年	秋	2		
	00086	保育原理（保育ニーズの多様化）	1年	秋	2		
	00207	こども家庭福祉	1年	秋	2		
	00162	こどもの食と栄養（発達と食生活）	1年	秋	1		
	00163	社会的養護 I	1年	秋	2		
	00036	教職・保育職概論	2年	春	2		
	00197	造形と表現	2年	春	1		
	00213	乳児保育 I	2年	春	2		
	00215	子育て支援論	2年	春	2		
	00122	障害児保育演習（理念と援助）	2年	春	1		
	00156	保育実践演習 I	2年	春	2		
	00208	こどもの保健	2年	春	2		
	00164	社会的養護 II	2年	春	1		
	00209	こどもの健康と安全	2年	春	1		
	00191	保育カリキュラム論	2年	秋	2		
	00196	音楽と表現 II	2年	秋	1		
	00202	保育内容（健康）	2年	秋	2		
	00203	保育内容（表現）	2年	秋	2		
	00214	乳児保育 II	2年	秋	1		
	00121	保育相談支援	2年	秋	1		
	00123	障害児保育演習（現状と課題）	2年	秋	1		
	00192	こどもの理解と援助	2年	秋	1		
	00211	家庭支援論	2年	秋	2		

区分	No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
	00201	保育内容(人間関係)	3年	春	2		
	00200	保育内容(環境)	3年	春	2		
	00119	保育実習Ⅰ(保育所)	3年	春	2	あり	
	00154	保育実習Ⅰ(保育所)事前事後指導	3年	春	1	あり	
	00114	保育実習Ⅰ(施設)	3年	春または秋	2	あり	
	00155	保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導	3年	春または秋	1	あり	
※1 保育士要件必修単位数					63		
	00001	宝仙の歴史	1年	春	1		
	00002	宝仙の教育	1年	秋	1		
	00003	仏教概論(歴史)	2年	春	2		
	00004	仏教概論(思想)	2年	秋	2		
	00005	人間形成論	1～4年	秋	2		
	00007	異文化理解	1～4年	秋	2		
	00008	日本国憲法	1～4年	秋	2		
	00028	情報処理演習(基礎)	1年	春	2		
※2 上記科目より、6単位を選択必修					6		
	00035	教育制度論	1年	秋	2		
	00168	保育の現場を知るⅡ	1年	秋	2		
	00169	保育の現場を知るⅢ	2年	春	2		
	00157	保育実践演習Ⅱ	2年	秋	2		
	00216	歌遊び	3-4年	春	2		
	00111	障害児の発達と運動遊び	3-4年	春	2		
	00105	子育て支援フィールドワーク(基礎)	3-4年	春	2		
	00108	絵本と児童文学	3-4年	春	2		
	00112	地域社会とこども家庭福祉	3-4年	春	2		
	00104	子育て支援カウンセリング	3-4年	秋	2		
	00106	子育て支援フィールドワーク(応用)	3-4年	秋	2		
	00109	リトミック	3-4年	秋	2		
	00205	保育内容の指導法Ⅰ	3年	春	2		
	00061	保育方法論	3年	春	2		
	00062	こども理解と教育相談	3年	春	2		
	00206	保育内容の指導法Ⅱ	3年	秋	2		
	00217	音楽遊び	3年	秋	2		
	00107	児童文化	4年	秋	2		
	00171	在宅保育論	4年	秋	2		
※3 上記科目より、15単位を選択必修					15		

区分	No	科目名	年次	学期	単位数	履修条件	修得年度 学期
	00116	保育実習Ⅱ(保育所)	3年	秋	2	あり	
	00126	保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導	3年	秋	1	あり	
	00117	保育実習Ⅲ(施設)	3年	秋	2	あり	
	00127	保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	3年	秋	1	あり	
※4 「保育実習Ⅱ(保育所)」と「保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導」、または「保育実習Ⅲ(施設)」と「保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導」のいずれかを選択必修					3		

卒業カリキュラム	必修	選択必修	当該学期 GPA	累積GPA
必要要件単位数・GPA値	63単位	24単位(※1~4)	-	1.5以上
年度春				
年度秋				
合計	単位	単位		
年度春				
年度秋				
合計	単位	単位		
年度春				
年度秋				
合計	単位	単位		
年度春				
年度秋				
合計	単位	単位		
総合計	単位	単位		

- ◎ このチェック票は履修登録時の補助的役割として使うこと。
- ◎ 履修条件など、各科目の詳細や最新の情報については、「授業ハンドブック」及び「シラバス」を参照のこと。

2020年度版「授業ハンドブック」

発行日 2020年4月1日

編集 こども教育宝仙大学

発行 こども教育宝仙大学

印刷 山浦印刷株式会社
